

JIA建築家大会2018東京

TOKY 2018

素なることと多様な相

SIMPLICITY | MULTIPLICITY

大会報告書

大会テーマ

素なることと多様な相

1

ARCASIA 大会テーマ

「Simplicity | Multiplicity」の
邦題

2

単純な形や単位から
多様な空間を構築していく
現代的な設計手法

3

限られた材料と技術で
様々な用途や規模の建築を生む
建築家の職能

3つの意味を含め、建築家の職能や
JIAの存在意義そのものを問う機会

単純な形や単位から多様な空間を構築していく方法論は、現在では流行を超えて既にスタンダードとなりつつあります。これを高次に捉えれば、いま手に入る材料と技術だけで様々な用途や規模の強くて安全な建築を考える我々の普遍的な職能も、この関係性の相似形と言えるでしょう。

「素なることと多様な相」とは、同時開催されるARCASIAのテーマ「Simplicity | Multiplicity」の邦題であるとともに、そうした現代的な設計手法と、立ち戻るべき建築家のありかたとを重ね、3つの意味が込められた、建築家大会のメインコンセプトです。

IT技術で地方との情報格差もほぼ解消された東京における11年ぶりのJIA建築家大会と21年ぶりのARCASIAの同時開催にあたっては、東京の地域性よりむしろ、建築家の職能やJIAの存在意義そのものを大きくテーマに掲げ、これらを見直す絶好の機会にしたいと考えています。

目 次

会長あいさつ	六鹿正治	4
実行委員長あいさつ	藤沼 傑	5
大会プログラム		6
大会式典・レセプションパーティー	慶野正司	8
基調講演4・メインシンポジウム「素なることと多様な相」	田口知子	10
全国会議（環境・保存・災害・まちづくり）合同シンポジウム		
地域ポテンシャルを活かす／ストックの再評価	連 健夫	12
公開二次審査 大井町駅前パブリックスペース設計コンペティション	相坂研介	14
若手セッション＋クロージングパーティー	相坂研介	16
フォーラム JIA保存再生会議年次フォーラム	金山真人	18
全国会議 全国災害対策会議ミーティング	松本純一郎	19
全国会議 JIA環境会議	長井淳一	20
全国会議 全国住宅部会連絡会議	高橋隆博	21
全国会議 全国まちづくり会議ミーティング	連 健夫	22
イベント JIAバンドパーティー on JIA建築家大会	大川宗治	23
法人協力会員サミット	河野剛陽	24



全国会議	全国地域会長会議	長尾 健	25
シンポジウム	JIA25年賞シンポジウム「25年賞ウラ話」	大谷弘明	26
フォーラム	JIA-KIT建築アーカイヴス会議フォーラム		
	「偉大な先輩建築家に学ぶⅤ」	上垣内伸一	27
シンポジウム	～貴重な歴史文化遺産を引き継ぐ～		
	「気仙沼風待ち復興検討会」の「登録有形文化財」建物との取り組み	大橋智子	28
フォーラム	世界から見た日本の建築家資格制度	内野輝明	29
全国会議	建築相談全国会議	樋口芳文	30
シンポジウム	JCCA×JIA協働シンポジウム「誰が景観を創るのか?」 12回	亀井尚志	31
コンペ	第12回建築家のあかりコンペ2018 公開2次審査・表彰式	松村哲志	32
エクスカーション	JIA文化財修復塾主催「継がれる建築家の意思」	山田健太郎	33
展示／会場／グッズ			34
新聞記事			35
大会概要／関係者・協力者			52



JIA建築家大会2018東京を終えて

公益社団法人 日本建築家協会会長

六鹿正治



アルカジア大会から JIA 建築家大会まで一連の流れ

JIAではこのたびの大会を通じて、アジアの建築家たちと日本の建築家たちの接触の機会をなるべく増やすべきと考え、週初から始まるアルカジア大会と週末に行われるJIA建築家大会を統一テーマのもと、同会場で一連の流れとして一体的に企画しました。

アルカジア大会の初めの3日間はアルカジア役員会、各国協会の会長による会議やテーマ別委員会などの会議に終始しました。

4日目と5日目がテーマに基づく基調講演やシンポジウムが行われる大会の本番です。そしてこの部分をJIA建築家大会登録参加者が重ねて参加できるようにして、アルカジア大会では5日目にあたる金曜日に本格的に行われるJIA建築家大会に切れ目なくつながるようにしました。続けてプログラムに参加された方々には従来ないような多様で多彩な考えに触れる機会を提供できたと考えています。

JIA 建築家大会で注目したことは

いつもながら、充実した各全国会議に加えて、今年はアルカジア大会とテーマを合わせた基調講演とシンポジウムが行われたことが大きな特徴でした。

また、実施に移される公共施設のコンペの最終審査を大会中に完全公開で行えたことは特筆に値します。しかも応募資格を緩和して実績の乏しい若手や個人にも参加の機会が与えられたことは画期的です。竣工までJIAがアドバイザーの役割を果たせることも大きなことです。

photo: Arito



大会式典で挨拶をされる六鹿会長

理解のある自治体発注者との密接な協議があつてこそ実現したことであり、関係された方々に心からの敬意を表します。超多忙な友人も、公開審査はワクワクして思わず時間の経つのも忘れて最後まで聴きいったと語っていました。今後毎年のJIA建築家大会で試行が重ねられて根付いていくことを期待します。

アルカジア大会も含めた中味の濃い1週間の締めくくりは、近未来特別委員会の中間報告を兼ねた若手セッションでした。データや確実な現状分析に基づきつつ、日本における建築家の近未来、そしてJIAの近未来像について、豊かな発想も交えた充実した議論を行っているという印象を受けました。

photo: Koji Uchida



大井町駅前パブリックスペース設計コンペ公開二次審査プレゼンテーション



若手セッション

建築家大会2018東京においてのプログラム開催報告

大会実行委員長
関東甲信越支部長
藤沼 傑



アルカジア大会との連携を図る

アルカジア大会と合同で開催したJIA建築家大会2018東京に、多くの皆様にご参加していただき、ありがとうございました。また、この会をご後援、ご支援していただいた皆様にお礼を申し上げます。

これら大会準備として、2015年からアルカジアの誘致検討を始めました。従来のJIAの国際活動は「国際交流、親善貢献」が主体でしたが、今後縮小していく国内市場を考えると、海外市場開拓についてJIAの積極的な活動が必要となります。日本の建築力を直接見ていただき、堅調に成長しているアジアにおいて日本のプレゼンスを維持すること、災害対応について情報連携を深めることが、当初からの誘致の目的でした。

2016年9月にアルカジア香港大会で誘致が決定し、建築家大会とどのように連携するかの検討を始めました。両大会の実行委員会は、情報共有しながらも、個別に大会内容を検討してきました。建築家大会は何故開催するのかという議論から始め、JIAを維持発展させるために次世代へどのようにつなげていくかを主体にプログラムを構成しました。

ACA18 TOKYOのプログラムとの共通点

9月13日(木)から15日(土)までのプログラムを改めて見ますと、多くの共通点がありました。14日(金)午前中の「SDGs／持続可能な開発目標」でパキスタンのYasmeen Lari女史の活動は、15日午前の「地域ポテンシャルを活かす」で議論した内容と重なります。同じく15日午前

中の「世界から見た日本の建築家資格制度」の内容は、10日に開催したアルカジアの建築家職能委員会で紹介されたアジア各国における建築家資格関連の課題に直接つながっていきます。アルカジアには若手建築家の次世代委員会があり、10日にこの委員会で討議した内容が、15日のJIA「若手セッション」でプレゼンテーションされた内容と一致していました。アルカジアの理事会では、ヘリテージをどのように今後議論していくかが課題となりました。15日のプログラム「貴重な歴史文化遺産を引き継ぐ」「25年賞ウラ話」の内容はアジアの人にも価値があるものです。

最大の成果「大井町駅前パブリックスペース設計コンペ」

今回の建築家大会の最大の成果は、「大井町駅前パブリックスペースの設計コンペ」でした。この活動は設計者選定だけではなく、設計完成までJIAが関わり、良質な公共建築を確実に市民に届けることを目的としていますので、今後ともご意見、ご指導を皆様からいただきたく、よろしくお願いします。

建築家大会単体では1日半、アルカジア大会も入れて3日間、さらにアルカジア委員会と理事会を入れると1週間でしたが、改めて建築家の職能の多様性を実感しました。これら多様な活動を俯瞰することで、建築家個人の活動の素が強固になると大会で実感しました。13日のフレンドシップナイト、14日のJIAバンドパーティーと2夜続けて建築家が東京の街で歌った、素晴らしい大会でした。ありがとうございました。

photo: Koji Uchida



藤沼委員長による挨拶



大井町駅前パブリックスペース設計コンペ公開二次審査

大会プログラム



ACA18 TOKYO
アルカジア東京大会 2018

	9.13 (木)	9.14 (金)	
9:00	★ 開会式 09:00-09:45 [アカデミーホール]	★ テーマセッション 4 SDGs / 持続可能な開発目標	9:00
10:00	★ テーマセッション 1 Simplicity Design 基調講演 1 Kai-Uwe Bergmann テーマプレゼンテーション 〈Design〉 10:00-12:00 [アカデミーホール]	基調講演 3 Yasmeen Lari ショートトークセッション 9:00-12:00 [アカデミーホール]	10:00
11:00			11:00
12:00	建築未来展オープニング 12:00-12:30 [ビクトリーフロア]	★ 閉会式・引継式 12:00-12:30 [アカデミーホール]	12:00
13:00			13:00
14:00	★ テーマセッション 2 Multiplicity City 基調講演 2 横文彦 テーマプレゼンテーション 〈City〉 13:30-15:30 [アカデミーホール]	エキスカッション 13:30-17:00	基本講演 4 / メインシンポジウム テーマ: 「Simplicity Multiplicity」 ～素なることと多様な相～ 登壇: 藤本壮介 × 野老朝雄 モデレーター: 五十嵐太郎 13:00-15:30 [アカデミーホール]
15:00			15:00
16:00	★ テーマセッション 3 Multiplicity Technology テーマプレゼンテーション 〈Technology〉 15:50-16:30 [アカデミーホール]		「建築の日本展」鑑賞 [森美術館]
17:00			17:00
18:00	Friendship Night 18:00-22:00 [ホテルニューオータニ東京]		大会式典・レセプションパーティー 18:00-20:00 [グランドハイアット東京]
19:00			19:00
20:00			JIA バンドパーティー on JIA 建築家大会 20:30 (開演) -23:00 [BIRD LAND]
	JIA建築家大会に登録された方は、★のACA18プログラムに参加できます。すべて同時通訳付です。 テーマセッション4は、満員の際にJIA会員がサテライト聴講となる場合があります。 ACA18 TOKYOの参加登録をした方は、JIA建築家大会の各種講演を聴講することができます。		

学生 イベント	9月10日～14日 アルカジア学生ジャンボリー	9月14日 アルカジア大会 / JIA 基調講演、さよならパーティー
展 示	9月10日～14日 AAA 展 / アルカジア 建築賞受賞作品展	[アカデミーコモン 1F・展示スペース]
	9月10日～14日 カントリーレポート展・ACGSA 展・ACSR 展・アルカジア学生コンペ展	[アカデミーコモン 8F・308F]
	9月13日～14日 建築未来展	[アカデミーコモン 2F・ビクトリーフロア]
	9月14日・15日 JIA2017 各賞展示	
	9月14日・15日 第12回建築家のあかりコンペ2018 作品展示	
	4月25日～9月17日	建築の日本展



9.15 (土)

B-1

地域ポテンシャルを活かす／
ストックの再評価

全国会議（環境・保存・災害・まちづくり）
合同シンポジウム

コメンテーター：塚本由晴、大島芳彦

09:00-12:00
[アカデミーホール]

B-9

「大井町駅前パブリックスペース
設計コンペ」公開二次審査

<審査員>
千葉学、武井誠、原田麻魚 他

13:00-16:00
[アカデミーホール]

B-12

若手セッション＋
クロージングパーティー

井上宏、水越英一郎、小笠原正豊、
羽鳥達也、西田司、相坂研介

17:00-20:00
[建築家会館]

[アカデミーコモン 1F・展示スペース]

[アカデミーコモン 8F・308E]

[森美術館]

9.14 (金)

A-1 13:00～15:30

基調講演／メインシンポジウム
「Simplicity | Multiplicity」～素なることと多様な相～

A-2 15:30～17:00

JIA 保存再生会議年次フォーラム

A-3 15:30～17:00

全国災害対策会議ミーティング (※)

A-4 15:30～17:00

JIA 環境会議 (※)

A-5 15:30～17:00

全国住宅部会連絡会議 (※)

A-6 15:30～17:00

全国まちづくり会議ミーティング (※)

A-7 18:00～20:00

大会式典・レセプションパーティー

A-8 20:30～23:00

JIA バンド パーティー on JIA 建築家大会

9.15 (土)

B-1 9:00～12:00

【地域ポテンシャルを活かす／ストックの再評価】
全国会議（環境・保存・災害・まちづくり）合同シンポジウム

B-2 9:00～13:00

法人協力会員サミット (※)

B-3 9:00～12:15

全国地域会長会議 (※)

B-4 10:00～12:00

JIA25 年賞シンポジウム「25 年賞ウラ話」

B-5 9:00～12:15

JIA-KIT 建築アーカイヴス会議フォーラム
「偉大な先輩建築家に学ぶⅤ」

B-6 10:00～12:00

～貴重な歴史文化遺産を引き継ぐ～
「気仙沼風待ち復興検討会」の「登録文化財」建物との取り組み

B-7 9:30～11:00

世界から見た日本の建築家資格制度

B-8 9:00～10:30

建築相談全国会議 (※)

B-9 13:00～16:00

「大井町駅前パブリックスペース設計コンペ」公開二次審査

B-10 13:00～15:30

JCCA×JIA 協働シンポジウム 誰が景観を創るのか？

B-11 13:00～17:30

第 12 回建築家のあかりコンペ 2018 公開 2 次審査・表彰式

B-12 17:00～20:00

若手セッション＋クロージングパーティー

B-13 13:15～18:30

【エクスカッション】JIA 文化財修復塾

(※)印は会員のためのプログラムです。

グローバルな会場で大勢の参加者のもと 盛大に開催

大会実行副委員長
慶野正司



本大会では大会プログラムの構成上、例年とは異なり大会式典とレセプションパーティーを同じ会場で開催しました。会場であるグランドハイアット東京は、グローバル感溢れる六本木ヒルズ内に位置し、ラグジュアリーホテルとして名高く、「一流の会場で一流のパーティーを」を目指しました。

当日は、メイン会場である明治大学でのプログラム終了後、六本木に移動しての開催にもかかわらず当日登録も含めて351名の登録をいただき、またアルカジア大会からの参加者、ご来賓の方々を含め、総勢450名のご参加のもと盛大に開催されました。

大会式典

式典の部では冒頭、主催者である六鹿正治会長の歓迎の挨拶に続いて、

国土交通省住宅局長 石田 優 様

(公社)日本建築士会連合会会長 三井所清典 様

(一社)日本建築学会会長 古谷誠章 様

アメリカ建築家協会最高経営責任者

ロバート・アイヴィ 様

の4名の方々にご来賓を代表してご挨拶をいただきました。

続いて本年度名誉会員になられた、

清水一男 様

下村憲一 様

吉村篤一 様

タイ王立建築家協会会長

アチャポン・ドゥシットナノン 様

アメリカ建築家協会会長 カール・エレファンテ 様

の皆様をご紹介します。

photos: Arito



JIA会長 六鹿正治氏



国土交通省住宅局長 石田 優氏



日本建築士会連合会会長 三井所清典氏



日本建築学会会長 古谷誠章氏



アメリカ建築家協会最高経営責任者
ロバート・アイヴィ氏



タイ王立建築家協会会長 アチャポン・ドゥシットナノン氏 (左)、下村憲一氏

レセプションパーティー

(一社)日本建築士事務所協会連合会会長 佐々木宏幸様の乾杯のご発声により、パーティーの部がスタートしました。

パーティーでは、ご来賓の皆様との歓談、会員間の談笑など参加者が思い思いに美味しい料理と飲物に舌鼓を打ちながら終始和やかな時間が流れていきました。歓談中、全プログラムが終了しているアルカジア東京大会の報告、また終盤では来年度開催地である東北支部鈴木弘二支部長はじめ支部会員の皆様が法被姿で登壇し津軽三味線の音をバックに精力的に弘前大会のPRがなされました。会場全体が北の地の空気に包まれ、参加者には来年の弘前大会が刻まれたものと思います。あっという間に2時間が過ぎ、閉会の挨拶ではアルカジア大会実行委員長の高階澄人氏の音頭により気合の入った三本締めで幕を閉じ、大会初日の印象に残るレセプションパーティーとなりました。

ご協力を賜りました全ての皆様に感謝し、ご報告といたします。



藤沼傑大会実行委員長のあいさつ



アルカジア大会実行委員長 高階澄人氏の音頭による三本締め



日本建築士事務所協会連合会会長 佐々木宏幸氏の乾杯のご発声



2019年度の全国大会開催の東北支部の皆さん



基調講演4・メインシンポジウム 「素なることと多様な相」

会場：明治大学アカデミーコモン アカデミーホール 日時：9月14日(金) 13:00～15:30

講演者：野老朝雄 藤本壮介 モデレーター：五十嵐太郎

価値あるものを作り続けるために

大会実行委員会企画部会委員

田口知子



「素なることと多様な相」という大会テーマは、アルカジア大会の「Simplicity | Multiplicity」の邦題でもある。「JIA建築家大会2018東京」の基調講演という場で、才気溢れる3人の講演者が一堂に会することで、私たちの想像を超える何かがあるところに立ち願ってくれることを期待していた。

野老朝雄氏の講演では、ご自身の作品を、「個と群」、「律」というテーマに沿って語られた。○や□などのシンプルな図形を、「律」と呼ぶルールによって構成し、多様な造形(群)を形づくことで「紋様」を生み出す。単位を決める際の厳密な数学的秩序の追求は、多様性を実現するためのルールの発見でもある。伝統工芸やアルゴリズムの研究者と協同してそのようなかたち、紋様を生み出す野老氏の作品は、氏の語る「集合知」を表していると感じた。野老氏のお父様が建築家であり、ご自身もAAスクールで建築教育を受けられたことは、普遍性を求める志向に関係があると感じた。一方、野老氏が率直な語り口で、建築への熱い想い、お父様の思い出のあるJIAへの憧憬を語られたことは、会場の私たちに温かく響いた。同時に「文化・Cultureの世界から建築がいなくなっ

た」という氏の言葉は、耳に痛いものだったのではないかな。

藤本壮介氏の講演では、「Simplicity | Multiplicity」について、「それは建築そのものである」という言葉で始まった。学生時代に、『新建築』のコンペで提案した入れ子の住宅作品を見せ、中、外の概念が入れ替わるマトリョーシカ人形のような空間が多様な体験を生み出す、という話から、実作House Nの写真を見せ、シンプルであり多様、という空間体験を明らかにしてみせた。多様性は「形」だけでなく「関係」や「体験」、「意味」のレベルで存在する、という話をさまざまな作品を通して説明された。「建築のシンプルさは魅力でもあるが、暴力的にもなりうる。それをクリエイティブに和らげる方法として、多様性をつくり出す方法を考える」、「弱い個人であることを保ち続けたい」という言葉に、建築家ならではのヒューマニズムの思想を感じた。根源的であり先鋭的、なつかしくて未来的、普遍的であり唯一のもの、という両義性が氏の作品の特徴であり、世界を魅了する建築家の思想を形成しているのかと、あらためてその作品の奥行き、豊かさを感じた。



野老朝雄氏の講演



藤本壮介氏の講演



後半の五十嵐太郎氏のモデレートによるシンポジウムでは、建築をとりまく都市の状況に話が発展した。藤本氏いわく「フランスでは、民間の建築も公開コンペで選び、市民で議論しながら建築をつくる。地域や社会に貢献する価値のある建築を選ぼうとする熱気がすごい」という。その言葉に、日本の社会状況との温度差が浮かび上がった。

日本では、デザインされた建築は「贅沢」、「機能的で安いことは正しい」と「みんなが賛成する意見」を追い求める傾向がある。「箱モノ批判をやっているうちに、ただの箱しかつくることができない国になってしまったら洒落にならない」と五十嵐氏。「この国ではデザインコンペにお金を出さない。建築家をもてはやす一方、過少評価もされている」と、藤本氏も吐露する。この傾向は国立競技場コンペが起点になっているのか、3.11以降日本人に起きた「つつましきへの志向」なのか、今の日本に漂う建築の閉塞感を語った。

そんな日本の建築家に向けて、「小さいからこそ自由にできることがある。問題を起こさないためにアンケートを取っても、価値あるものは生み出せない」と野老氏、「社会の中に議論を引き起こすことが大切。議論を戦わせて良いものを作ろうとする社会は健全だ。真に価値あるものをつくるにはお金がかかることを知ってほしい」という藤本氏の言葉には、未

来の社会への責任を担おうとする建築家、デザイナーの気迫が伝わってきた。

五十嵐氏は、建築が人の流れを変えた金沢の例をあげて、「価値ある建築をつくるのが町の価値を上げる。古き良きものを大切に守りつつ、クリエイティブな新しさを付け加える都市は時間が重層し、真に魅力的な都市になる。そのような都市は、AIや情報社会が発達しても得られない、実体験の豊かさを与えてくれるから強い」と語った。

今回の講演を聞いて感じたのは、次世代に残る「価値あるもの」を生み出すのは「鍛えられた個人」であるということだ。「どんな人も自分の得意分野に集中することで個人の力を高めることはできる。自分の刀を研いで、他の才能とつながることで価値あるものをつくりだすことができる。建築は即効性を求めるジャンルではない」という野老氏の言葉は力強く響いた。そのとき自分の中に「素なることと多様な相」のもう一つの側面が浮かび上がった。情熱を持った個人の建築家(=「素」)が、異なる才能を持つ他者と協同することで生まれる集合知(=「多様な相」)を目指すことで価値あるものを次世代に残す、というイメージだ。建築家のミッションを再認識させてくれた素晴らしい基調講演・シンポジウムだった。



シンポジウムモデレーター 五十嵐太郎氏



全国会議（環境・保存・災害・まちづくり） 合同シンポジウム 地域ポテンシャルを活かす／ストックの再評価

会場：明治大学アカデミーコモン アカデミーホール 日時：9月15日(土) 9:00～12:00

コメンテーター：塚本由晴、大島芳彦 モデレーター：連 健夫

登壇者：安田幸一、篠田義男、松下 督、松本 昭、彦根アンドレア、今野照夫、倉方俊輔

ストック活用をテーマに 建築家のあり方を考える

JIAまちづくり会議議長

むらじ
連 健夫



このシンポジウムは2015年の金沢大会から続いている分野横断的企画で、「ストック活用」をテーマに4回目となります。今回は「仕組み、作品、技術」のキーワードを手掛かりに深堀の議論となりました。

前半：各会議からのプレゼンテーション

環境から安田幸一氏が「未来に向けてストックを作る」と題し、環境そのものがストックである、何を後世に残していくべきか、というメッセージをポーラ美術館や多くの環境賞作品事例を通して説明されました。

保存再生から篠田義男氏が「保存再生活動の可能性」と題し、建築は文化を集積したストックであり、都市の記憶装置であるとし、仕組みとして文化財ドクターの活動から、JIA修復塾について教育と専門性表示の話がされました。

災害からは松下督氏が「災害の備えと復興」と題し、仕組みとしてFace to Face、作品として事業企画力、技術としてBIMなど最新技術利用による最適解の可能性を指摘されました。

まちづくりから筆者は、英国の仕組みとして、CABEが建築許可申請においてデザインレビュー（協議調整）を行っており、評価軸はコミュニティ推進や二酸化炭素排出軽減など誰でも分かる内容、JIAでは2012年度から事業計画に日本版CABE推進を位置づけ、各支部地域会で萌芽事例が生まれている、と紹介しました。

松本昭氏は2000年の地方分権一括法から、地域性を捉えた条例活用が行われており、協議調整システムを取り入れる自治体が増えてきている、企画力のある建築家は制度について興味を持ち、関与する必要があると指摘されました。



安田幸一氏



篠田義男氏



松下 督氏



連 健夫氏



松本 昭氏

全国会議
(環境・保存再生・災害・まちづくり)

合同シンポジウム

地域ポテンシャルを活かす

ストックの再評価

仕組み
作品
技術

環境 **保存** **災害** **まちづくり**

2018年9月15日(土)
AM9:00～12:00

会場：明治大学 アカデミーコモン
東京都千代田区神田駿河台2-1

協賛：公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
賛助：関東甲信越支部
TEL 03-3408-6233

参加 無料
申込 不要

コメンテーター
塚本 由晴 大島 芳彦

モデレーター：連 健夫

登壇者：安田幸一、篠田義男、松下 督、松本 昭、彦根アンドレア、今野照夫、倉方俊輔

プログラム
9:00 あいさつ
9:05 趣意説明 (モデレーター：連 健夫)
第一部
9:15 環境 (安田幸一)
「未来に向けてストックをつくる」
保存再生 (篠田義男)
「保存再生活動の可能性」
災害 (松下 督)
「災害への備えと復興」
まちづくり (連 健夫・松本 昭)
「良質な建築を作る仕組み」
第二部
10:40 パネル
塚本由晴・大島芳彦
11:00 ディスカッション
塚本由晴・大島芳彦
彦根アンドレア・今野照夫
倉方俊輔・松本昭
11:55 まとめ
12:00 終了

主催：JIA環境会議、JIA保存再生会議、JIA災害対策会議、JIAまちづくり会議
協賛：NPO建築家教育推進機構



後半：コメントとディスカッション

後半は、コメンテーターとして、塚本由晴氏が、「資源の再利用において、地域の生業としての産業を捉えることが大切であり、commons（協働性、共有性）の再構築が求められる、プラットフォームとしてアクセシビリティと、誰が？というメンバーシップの捉え方が大切」と指摘されました。大島芳彦氏は、「建築を社会の資源として捉えることが大切であり、これには企画、経営などビジネス的思考が必要、空き家の不動産ビジネスは今や500兆円とも言われている、この放置されている資源を活用するためには、事業は多層的で関係者が当事者意識を持つことがポイントである」と指摘されました。

ディスカッションでは、彦根アンドレア氏から「地球環境への意識が大切、環境に関する技術が地域を繋ぐことになる」との話がありました。今野照夫氏は「石巻市北上の復興まちづくりの経験から、住民、行政、JIAやNPOとの協働がうまくいったのは日頃の人間関係がポイントである」と指摘されました。倉方俊輔氏は「ストック活用でうまくいっている事例には、ワクワクするビジョンがあり、それを時間のファクターで捉えることが大切である、プロセスに楽しさを内在させ、建築家はそれを見える化することができる職能」と説明されました。

これから必要な建築家の職能として、

- ①地域ポテンシャルを活かすビジョン設定能力
- ②多様な関係者の集合知としての調整能力
- ③幅広い分野における総合化能力

が、まとめとして挙げられました。



大島芳彦氏



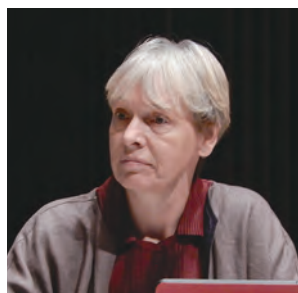
塚本由晴氏



今野照夫氏



倉方俊輔氏



彦根アンドレア氏

公開二次審査 大井町駅前パブリックスペース設計コンペティション

会場：明治大学アカデミーコモン アカデミーホール 日時：9月15日(土) 13:00～16:00
審査員：千葉 学（東京大学教授）、武井 誠（TNA）、原田麻魚（MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO）、
藤田修一（品川区防災まちづくり部長）、中村敏明（品川区都市環境部長）

次代の建築家、自治体、JIA それぞれに意義のあるコンペ

大会実行委員会企画部会部会長
相坂研介



コンペ開催趣旨と実施まで

開催の背景には、現在、我国の公共建築設計のほとんどが入札、残りも実績偏重のプロポーザルで、実績がなければ提案も参加もできないという悪循環がありました。この状況が続けばいずれ経験を持つ層が薄くなり、発注側にとっても選択肢が減って、多様性や公益性の面で建築家だけでなく社会全体にとって不利益だといえます。

一方、JIAは行政のパートナーとして、第三者的立場で独立性と公平性を保ちつつ、自治体や地域ごと個別の状況に対応した「発注者支援」を行える公益法人です。

そこで、①次代の建築家には公共建築への入口という希望を、②他の自治体には同様の公共建築コンペ開催の機運を、③JIA自体には発注者支援を行える職能団体としてのプレゼンスを内外に示すチャンスをそれぞれに与えることを目的に、小規模でも公共建築設計に参加しやすい実施コンペとして、まずは耳目を集める建築家大会に合わせて開いてくれる自治体を探していたところ、品川区から公衆便所の建替え案件をご紹介いただきました。

もちろん品川区の財産として長く愛される素晴らしい計画を集めることを第一に考えることを約束した上で、上記のような目的も達成すべく、その発注支援および公開二次審査をさせていただき運びとなりました。

本コンペでは要項作成からさまざまな配慮と工夫を凝らし、1)敷居の低い参加資格（一級建築士事務所なら実績も年数も

- 不要。個人でも法人でも可。1事務所1案なので、アトリエ圧迫を避けつつ、組織も排除せず、公平に機会を拡大）
2)ゆとりあるスケジュール（参加表明まで1か月、提出までもう1か月設け事務所登録も検討も十分可能に）
3)周辺への提案も自由（公衆便所を除く全体は複数年事業と扱っていただき、提案次第では次年度予算も視野に）
4)二次参加者への報酬（準備期間やマンパワーに配慮し模型作成を求めず、かつ最低限のプレゼン費用支給）
5)発注者支援組織が併走（審査は審査員が行うが要項作成や要所での設計レビューをJIAが行い、発注者の不安と提案者の孤立の両方をできるだけ防ぐ）

といった本コンペ開催趣旨を最大化する特長があり、加えて、6)審査員は、発注支援者の一員として今後も併走していただく可能性から、JIA正会員の中で近年類似の公共建築設計の実績をお持ちの男女（トイレの審査につき）の建築家……敦賀駅前広場も手掛けた千葉学氏を委員長に、コンペで選ばれ上州富岡駅前広場を設計したTNAの武井誠氏、道の駅ましこで日本建築大賞を受賞したMOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIOの原田麻魚氏、品川区の土木と建築の長である、防災まちづくり部長藤田修一氏、同じく都市環境部長中村敏明氏の5名に引き受けていただくことで、「案が評価される」ことを強調し、皆さまには要項作成からご協力いただきました。

◆計画対象

大井町駅前公衆便所および大井駅前公園（駐輪場、分煙コーナーなどを含む）の修景。
品川区の玄関口であるJR・東急大井町駅前にふさわしい、機能的で景観に配慮された魅力的な作品を募集する。
本設計コンペティションにおいて選出された最優秀作品の応募者を、業務委託の担当者とする。

◆参加資格

一級建築士事務所であること。

◆スケジュール（いずれも2018年）

参加表明書受付期間：6月25日(月)～7月27日(金)
提案作品受付期間：8月3日(金)～8月24日(金)
1次選定結果発表：9月4日(火)

2次選定（公開ヒアリング）および最終結果発表：

9月15日(土)（JIA建築家大会東京メイン会場である明治大学駿河台キャンパス アカデミーホールにて実施）

◆審査員（敬称略）

千葉 学（委員長、建築家・東京大学教授・JIA正会員）
武井 誠（建築家・JIA正会員）
原田麻魚（建築家・JIA正会員）
藤田修一（品川区防災まちづくり部長）
中村敏明（品川区都市環境部長）

◆主催・事務局等

主催者：品川区
担当課：品川区防災まちづくり部公園課公園建設担当
支援・協力：公益社団法人日本建築家協会（JIA）

一次審査と東京大会での公開二次審査

6月末の参加登録は377者、8月末の提出数は227案も集まり、「素晴らしいご提案をこんなに数多くお寄せいただけた」と、品川区の方々から驚きと喜びの声をお聞かせいただきました。そこから匿名での厳正で公正な一次審査で選ばれた5者は、蓋を開ければ偶然ながら、ほぼ全社狙い通り公共経験の少ない事務所でした。

二次審査は建築家大会終盤9月15日の13時より、明治大学アカデミーコモンのアカデミーホールで行われました。大会企画である以前に、実施コンペの公式な審査会であるため、発表者・審査員はもちろん、運営や司会など我々裏方まで全員が緊張し、聴衆を含む会場の全員が真剣に臨みました。

5者のプレゼンテーションを聞いた後、慎重な討議と投票の結果、最優秀者は金子貫介氏（あかるい建築計画）＋斎藤信吾氏（同）＋根本友樹氏（無所属）、次点は虎尾亮太氏（虎尾＋謝建築設計）、入選佳作は須藤剛氏（須藤剛建築設計事務所）、瀬川洋文氏（Studio Tokyo West）＋渡部翠氏（同）＋眞田

峻輔氏（無所属）、野副晋平氏（野副晋平建築計画事務所）＋森創太氏（nmstudio）＋蛭川結氏（同）＋讃岐亮氏（首都大学東京）となりました。

最優秀者「あかるい建築計画」の“7つの塔がつむぐ都市の風景”は、あらゆるジェンダーが使いやすい独立した搭状のトイレ個室を、7つのタワーのように公園内に点在させた計画で、審査委員長からは、「ネガティブな空間のイメージをアートに変える画期的な提案」と高く評価されました。

JIAとしては今後も、デザインレビューや会議同席などで品川区を支援しながら、選定者による実施設計の成立もバックアップしていく予定であり、これからが本番です。

さらに品川区にとどまらず、これからはさまざまな発注者を支えつつ、建築家の職能を社会に還元してこそJIAの存在意義が見直されるのであり、そうした姿を広く発信できてこそ、建築家大会の開催継続意義もあるのだと思います。



公開二次審査



審査員の方々

◆最優秀賞

金子貫介（あかるい建築計画）＋斎藤信吾（同）＋根本友樹（無所属）

「7つの塔がつむぐ都市の風景」

◆次点

虎尾亮太（虎尾＋謝建築設計）

「都市の円弧」

◆入選佳作

須藤剛（須藤剛建築設計事務所）

「大井町の「やぐら」と「いち」

野副晋平（野副晋平建築計画事務所）＋森創太（nmstudio）＋蛭川結（同）＋讃岐亮（首都大学東京）

「屏風景」

瀬川洋文（Studio Tokyo West）＋渡部翠（同）＋眞田峻輔（無所属）

「まちとつながる大屋根」

（敬称略）



最優秀案「7つの塔がつむぐ都市の風景」（設計：金子貫介、斎藤信吾、根本友樹）

若手セッション+クロージングパーティー

会場：建築家会館大ホール・JIA館建築家クラブ 日時：9月15日(土) 17:00～20:00

登壇者：井上 宏、水越英一郎、小笠原正豊、羽鳥達也、西田 司、相坂研介

建築家やJIAの未来像について 会場を交えて意見交換

大会実行委員会企画部会部会長

相坂研介

関東甲信越支部の近未来研究特別委員会メンバーが登壇

建築家大会最終枠には、プログラムを見終わった全国のJIA会員はもちろん、大井町駅前コンペやあかりコンペの参加者など若手や非会員も集まると考え、建築家やJIAの未来像について全国16名の40代委員が議論を重ねている「近未来研究特別委員会」から関東甲信越支部のメンバーが登壇し、会場と意見交換できる公開トークセッションを企画しました。

近未来委員にとっては中間報告の機会にするとともに、会場の会員・非会員からの反応、意見をフィードバックし、報告書の精度をさらに高める狙いもありました。

各WGリーダーより活動報告や問題点の提示

発表は5つのワーキンググループリーダーにより進行。「信頼性回復WG」の水越英一郎氏(山下設計)が社会の期待と自分たちの認識の乖離と失墜した信頼性回復の必要性を、「発注形式WG」の羽鳥達也氏(日建設計)はデザインビルドの流れに対する専業設計者関与の利点PRと欠点改善を訴え、続く「社会ニーズWG」の小笠原正豊氏(小笠原正豊建築設計事務

所)が地方自治体へのヒアリング結果から“希少建築は著名建築家、その他は技術者建築士に頼みたい”という本音、「次世代の職能WG」の井上宏氏(久米設計)は社会状況の変化を踏まえて拡大し得る建築家のさまざまな役割の分布図などをそれぞれ紹介。それらを受け、「これからの組織WG」の相坂(相坂研介設計アトリエ)が“中立性”“全国単一組織”というJIAの長所を活かしつつ、“少ない会員数”“偏った年齢”という欠点を埋めるべく、建築士会・事務所協会と通常は分離、有事に協働する“合体ロボ”形式の連携や、人材バンク・発注支援での知見の共有などを提案し、西田司氏(オンデザインパートナーズ)がそれぞれを補足しました。

会場に異論・反論を含めご意見を求めたものの、むしろ六鹿会長を筆頭に各支部幹事や役職経験者の方々、非会員の若手からも予想をはるかに超える高い評価・賛同・エールをいただきました。

「情勢に柔軟に合わせる一方、ぶれない部分も大切に」とのご意見を含め、近未来委員にとって、さらに次世代のJIAにとっても、大変有意義な機会となりました。



上段左から 井上宏氏、水越英一郎氏、小笠原正豊氏
下段左から 羽鳥達也氏、西田司氏、相坂研介氏





若手セッション 六鹿会長のあいさつ



満員の会場

クロージングパーティー

若手セッションのあと、建築家会館大ホールとJIA館建築家クラブ両方を使い、クロージングパーティーを盛大に行いました。



歴史的建造物の保存・再生にかかわる 新たな「共有」に向けて

JIA保存再生会議議長

金山真人



今回の会議には、全国の保存再生委員の他、関連WGである文化財修復塾の小西敏正塾長、左知子副塾長、文化財ドクター派遣事業ユニットの松島逸人会員（北福岡地域会会長）、歴史的建造物データベース事業ユニットの柳沢伸也主査に参加いただきました。会議は古後信二委員の進行のもと、まず、各支部および関連WGからの活動報告が行われました（右表）。

続いて、近年各地で頻発している災害に際して、歴史的建造物をいかに守っていくか、そのために建築家はこういった活動ができるかについて、倉方俊輔副議長の進行により意見交換を行いました。その中で、近現代建築緊急調査事業等で充実の方向にある歴史的建造物のデータベースに加え、今後、保存、修復にかかわる技術の蓄積や共有を図ることが必要ではないかということが議論されました。

今回報告された事例をはじめ、保存が問題になる近現代建築は、JIAの先達の作品であることも多く、その設計手法や技術には、現代の建築家の活動と親和性があります。半面、地域の中での位置づけは、まだまだ不十分であるように思われます。「モダニズム」の理念や技術は普遍的なものだと考えられてきましたが、そういった普遍性をどのようにリージョナルなもの・ことと接続できるか。今振り返ると、近現代の技術も案外リージョナルなものにも思えますが、それによって成立した近現代建築の行く末を考える際に、「技術」が新たな視点を提供してくれるかもしれません。

今回は前後の行事の関係で、1時間半と短い時間になってしまい、十分な議論には至りませんでした。次につながる有意義な会にすることができたと思います。次回大会年次フォーラムでのさらなる議論の発展にご期待ください。

支部および 関連WG	活動内容
沖縄	耐震基準の変遷や、海砂等の使用材料に起因する、戦後RC造の耐久性に関する問題
九州	都城市民会館（設計：菊竹清訓）保存問題への取り組み（熊本地震対応はドクター派遣事業にて報告）
中国	水害における文化財復旧事業や、伝建地区における会員建築家の取り組み、ほか
四国	旧香川県体育館（設計：丹下健三）保存問題への取り組み
近畿	和歌山大学松下会館（設計：渡辺節）等の近現代建築物の保存問題への取り組み、リスト作成等のアーカイブ活動、奈良市との専門家派遣協定の締結について、ほか
北陸	重伝建地区内の歴史的建造物の保存・再生にかかわる補助金や工期に関する諸問題について
東海	他団体と協力しての登録文化財公開事業の実施や、遊郭建築等の歴史的建造物の保存問題への取り組みについて
関東甲信越	原宿駅舎（設計：鉄道省）、憲政記念館（設計：海老原一郎）等の保存問題に関する取り組みについて
東北	空き家再生に関する取り組みとの連携、文化財修復塾等と連携してのスカルップ事業の実施について、ほか
北海道	旭川市庁舎（設計：佐藤武夫）の保存問題や、帯広、函館での、インバウンドも視野に入れた歴史的建造物の保存再生に向けての取り組みについて、ほか
文化財修復塾	修復塾の概要と特徴について
文化財ドクター（熊本地震対応）	2016～17年にかけての1次～2次調査（文化庁補助事業）、および2018年度の熊本県・市単独事業を通じた歴史的建造物の復旧支援について
データベース	2017年度の神奈川、奈良、本年度の静岡、鹿児島での文化庁「近現代建築緊急調査事業」（事務局：建築士会連合会）の実施について



奈良市と締結した専門家派遣協定書

災害復興支援活動について 本質的な議論を展開

JIA災害対策会議議長

松本純一郎



今回の全国災害対策会議は、JIAの全国大会を機会として全国の委員が顔を合わせる年に一度の貴重な会議であった。全国支部の災害対策委員長はもちろんのこと、今回は地震の関係もあり、北海道支部長や災害対策支援活動に強い関心をお持ちの会員の方々もご出席いただき、災害復興支援活動についての本質的で充実した議論を行うことができた。また、北海道支部長からは胆振東部地震についての現状についての報告をいただいた。

最初に翌日の4会議合同シンポジウムにおける災害対策会議の発表内容についての議論があった。基本的には、「しくみ・技術・作品」という3つの視点から整理することとし、その内容は阪神・淡路大震災から東日本大震災まで数々の災害におけるJIAの災害支援活動の説明で、応急危険度判定や罹災度判定調査、被災住宅相談等の初期支援活動から復興まちづくり支援、さらには逃げ地図や避難ビル計画といった事前復興など多岐にわたるものである。それに対し出席者からは、福島原発事故災害の実態やいまだ復興も本格化していない地域の現状についても触れるべきとの声が上ががり、追加することになった。それと同時に、現在取り組んでいるネパール地震復興支援にも繋がる、福島県の本造仮設住宅の再利用支援は、JIAのストック利用の観点からもJIAらしい重要な社会貢献活動であるとの指摘があった。

まとめとして、災害復興では環境やまちづくり、保存の視点が重要であり他の会議体との連携が重要であること、建築家が行政と住民の間でコミュニティづくりを支援すること、平時から逃げ地図づくりのワークショップなどに専門家として参加し、住民との関係づくりを心掛けることが重要であること、事業計画を含めた総合的な企画力がこれからの建築家に求められることなどを盛り込むこととした。

次にJIAにおける災害対策活動等の社会貢献活動はどうあるべきかについて議論が行われ、建築家の社会的地位がいまだ低い状況の中で、社会貢献活動は建築家の職能として重要であり積極的に行うべきであるが、無償で携わることを前提に、常に品位を持って取り組むべきだという意見が大勢を占めた。また、地震だけでなく多様な災害に対する受け止め方や地域による違いなど、より細かく伝え、状況や教訓が全国の会員が理解できるように努めることが全国災害対策会議の役割の1つであるという議論があった。そして、災害支援活動を含む建築家の社会貢献活動についての考え方として、ア

ジア地域建築家評議会の「アルカジア社会的責任憲章」が参考になるとの意見があった。

さらには今後のJIAの会議体のあり方、長期的に取り組んでいる全国災害ネットワークやDCPの整備をよりいっそう推し進めることを確認し、活発な議論の中で会議を終えることができた。



SDGsを視野に幅広い活動への関心と 多様な視点を持つ

関東甲信越支部環境委員会委員長

長井淳一



環境会議は節目の第5回を迎え、今後の活動展望をテーマに意見交換を行った。はじめに議長から示された方針を軸に、環境会議WGの最新活動、支部・地域の各活動を共有し、議論を進めた。

活動展望…議長(小玉)

SDGs(持続可能な開発目標)を視野に、幅広い活動への関心と多様な視点を持つことが重要である。環境負荷削減を目指す建築行為の継続と、地域の気候・風土・知恵を活かした環境活動を課題とする。こうした目標の実現、活動の活性化を推進するプラットフォームを環境会議と位置づけたい。

環境会議のこれから…関東甲信越支部(長井)

JIAにおける環境会議(全国会議)の位置付けと組織構成を説明し、環境会議と支部環境活動における組織連携の事例を紹介した。

環境会議WGの活動報告…各担当より

環境建築賞：宮田…地域の特徴を活かした作品の応募に期待する。

木材利用促進セミナー：白江…CO₂削減に有効な木造建築の促進を目指し、連続セミナーを開催している。

環境懇話会：袴田…隔月で開催、Web配信も行っており、多くの方の参加を望む。

行政連携：寺尾・宮崎…国交省に協力、委員会委員派遣、ほか省エネ基準適合義務対象建築物にかかる設計・監理説明会講師を担当予定している。

伝統的工法の住まいWG：篠…サステナブル建築物等先導事業(気候風土型適応分野)への応募推進を図る。

支部からの話題提供 1…北海道支部(照井・山之内)

2018年6月に完成した「南幌町みどり野きた住まいるヴィレッジ」について報告された。道庁からの依頼を受け、コン

セプトと企画をJIA北海道支部が担当した移住定住促進プロジェクトである。「クオリティ・ファーストの暮らし」を地元の建築家と工務店のコラボレートで提案し、5棟が竣工している。そのプロセスについて、設計者からプレゼンテーションが行われた。

支部からの話題提供 2…沖縄支部(金城)

琉球浪漫/島・建築レシピ展、子供建築ワークショップ、建築文化講演会+対談、沖縄未来建築塾ほか最近の活動報告がされた。建築文化講演会では国広ジョージ氏を招聘し、「愛・尊敬・信頼～環境と建築を通じた貢献的国際交流」を開催した。

各支部から

続いて各支部からの近況報告と意見交換を行った。地域の特色ある環境活動が展開されている。リフォーム関連では、制度活用においてJIA会員の利用が少ないとの指摘があった。会場からは、地域会員とのコミュニケーションを望む声があった。

まとめ…議長

今回の北海道と沖縄の報告は意義深い。各地域の先進的かつ特徴的事例を包括的に共有することの重要性が見えた。このようなJIAらしい視点を軸に、情報交流を継続的に行う。広域な視点こそSDGsに通じるものであり、Webツール等を有効に活用し、シームレスに支部や地域会との連携を推進する。

活動連携と基盤整備に積極的に取り組み、社会に発信していきたい。



北海道支部の報告から
「南幌町みどり野きた住まいるヴィレッジ」



沖縄支部の報告から
「建築文化講演会2018」

連帯感を持って 住宅についての共通認識を確認し合う

関東甲信越支部住宅部会部会長

高橋隆博



当連絡会議は、全国10支部の住宅部会・委員会やそれに類する会員間の交流および情報交換を目的とした自主的な集まりです。かつて、有志の呼びかけで交流が始まり、2011年UIA東京大会での全国への呼びかけを機に、各支部持ち回りで建築家大会での集合型会議を定例とし、その他、年1～2回程度、集合型の会議、模型やパネル展示、見学ツアー等を開催しています。

今大会では、9月14日(金)15：30～17：00、明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン10F 310Jを会場に、集合型会議が開催されました。短期大会によるプログラムの重複や直前の北海道胆振東部地震等もあり、幾つかの支部の欠席もみられましたが、それでも20名程度の参加となりました。

例年の集合型会議では、各支部の活動報告と意見交換をしてきましたが、10支部の報告で時間の大半を占めていたため、今大会では活動報告を当日の配布資料とすることで、事前に募った幾つかのテーマに沿った、充実した意見交換ができました。

そのテーマは「素なること、多様な相と住宅設計(大会テーマを受けて、私たちのフィールドの現状とこれから)」をはじめ、「住宅のサステナビリティを考える～住宅の寿命と省エネ法」、「防災と住宅について」、「若手設計者不足について」、「建設費の高騰について」等々、各支部でまたは個人での課題・問題点や他支部や地域に問いたい多岐にわたるお題が出されました。時間の関係により進行は駆け足になりましたが、活発な意見交換や提案がなされ、共通課題であっても地域性の違いが浮き彫りになるなど、参加された皆さん個々に刺激や

共感とともに視野が広がったことと思います。

その中でも我国の住宅の平均寿命が、性能や品質の向上や長寿命政策にもかかわらずそれほど伸びず、スクラップアンドビルドが未だ全国的に横行している現状についての投げかけに対し、「私たちJIAの建築家は、古くなるほどに魅力が増す住宅、消費されない住宅を設計しよう。同時に、より市民に対して古い住宅の魅力を示す一方、再生やリノベーションなど、ストックの活用によって新たな価値や魅力等を生み出し発信しよう」とある種の声明ともいえる共通認識に得ることができました。

最後に、この全国住宅部会連絡会議の今後について意見徴収が行われました。各支部の状況、会員数、活動の内容や規模の違いの他、片や有志による自費運営による自主的な活動(部会)であったり、片や支部ミッションとしての活動(支部予算での運営)と、成り立ちや設立趣旨の違いを再認識する中で、開催頻度や内容の要望に違いはあるものの、このような交流や情報交換や交流は、個々の日常の設計活動への栄養となるばかりか、全国に仲間ができる喜びもあるという共通認識を確認でき、全会一致で今後も定期的に集合会議や見学会などを続けていこうという結論に至りました。全員が、ある種の連帯感を覚えながら次の再会を約束し、閉会を迎えました。



まちづくりをJIAの公益性とともに 職域を広げる活動として位置づける

JIAまちづくり会議議長

連 健夫

全国まちづくり会議は、JIAが2012年度の事業計画に日本版CABE推進を位置づけ、その展開として、全国各支部地域会における情報交換、意見交換として、年に3～4回開催しています。この会議では、まちづくりをJIAの公益性とともに職域を広げる活動として位置づけ、良質な建築、美しいまちづくりに寄与する仕組みを扱っており、「萌芽事例シート」をもとにした報告、行政向けに作成した「コンペ・プロポーザル」リーフレットの利用報告を行っています。

議事1

JIA建築家大会2018のプログラムの紹介として、全国会議(環境・保存再生・災害・まちづくり)合同シンポジウム「地域ポテンシャルを活かす／ストックの再評価」とJCCA×JIA協働シンポジウム「誰が景観を創るのか?」の紹介がありました。

議事2

各支部地域会から「萌芽事例シート」をもとにして以下の報告がありました。

北海道支部、菅沼秀樹氏…北海道南幌町「きた住まいるヴィレッジ」のモデル住宅は5件が竣工、6月のイベントでは約1,200名が来場。

北陸支部、伊藤瑞貴氏…「JIA北陸支部に所属」を要件にJIAがバックアップしてコンペを実施。

関東甲信越支部…季刊誌『Bulletin』での日本版CABEを考えるシリーズ、「作品づくりだけでなく環境・保存・災害・まちづくりに建築家の能力を使う意味」(2018年春号)、「市民の声をまちづくりに活かす仕組み」(2018年夏号)の紹介。

東海支部、黒野有一郎氏…建築家紹介の冊子『建築家+』を発行。

近畿支部、朝野佳典氏…奈良の社寺建築・近代建築のデータベース化を行い、修復塾として調査・保存などを行っている。

中国支部、山田暁氏…西日本豪雨災害を受け、CLTのユニットハウスの仮設住宅の提案を検討中、「長門湯本未来プロジェクト」において「まちづくり・景観条例」を整備中。

四国支部、眞田井良子氏…JIA会員を審査員とした建築デザインコンペの実施、「青石」と「みかんの段々畑」を道の駅「八幡浜みなと」の緑地公園に、石工職人と高校生の協力により製作。

九州支部、馬場泰造氏…弁護士会館のプロポーザルコンペの実施報告と、震災以後における罹災証明についての追跡

調査実施報告と、「建築塾」開催について。

沖縄支部、久高多美子氏…「未来塾」において参加者は終了後に「JIAジュニア会員」になる仕組み、建築三会で実施している建築賞は一般への周知になっている。

議事3(連)

一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構主催の「認定まちづくり適正建築士」(次回セミナー：2019年3月5、6日)と「建築系ADR調停人(建築やまちづくりのトラブルを調停する専門家)」の紹介。

議事4(連)

来年度の議長：委員会規定において、委員・議長は2期4年までとしているため、次期議長を亀井尚志氏(関東甲信越支部)にお願いしました。氏はJIAでの日本版CABE推進の経緯を理解されており、また都市まちづくり委員会の情報をお持ちで適任だと思います。

亀井氏から、来月に土木学会でデザインコンペのガイドラインが整備され、JIAがお手伝いできる可能性があるとの報告がありました。



イベント JIAバンドパーティー on JIA建築家大会

会場：BIRD LAND

日時：9月14日(金) 20：30～23：00

音楽を通して世代を超えた 会員同士の交流を図る

関東甲信越支部学芸祭部会長

大川宗治



バンドパーティーとは、JIA会員の音楽好きな建築家が、それぞれ各支部ごとに音楽を披露し、観てくださる方々と一緒に交流を図ろうというものです。2017年の四国大会で初めて催されたものが、引き続き今回の東京大会でもプログラムに組み込まれました。

場所は六本木BIRDLAND。参加バンドは、四国支部、東北支部、そして地元関東支部から3バンドの計5バンド。出演者込みで総入場者数129名という老若男女国際色豊かな方々が入り乱れての大盛況となりました。

幕開けは四国代表「Knockin' On Shikoku's Door」。50代から30代が入り混じったロックバンド。オリジナル曲も交えた素晴らしい演奏で会場を盛り上げてくれました。

2番手は 関東代表「The Cabaret」。ミュージカルの曲を歌って踊るという大胆なパフォーマンスで、演奏は1曲だけでしたが一気にお祭りムードに。

3番手は同じく関東の「すご〜いバンド」。歌謡曲、ロックなど皆が知っている軽快な音楽を中心に熱唱、元ARCASIA会長のNUIさん(タイ)も飛び入り参加で2曲セッションとなり、レセプションから直行してくれた客席のARCASIAメン

バー達も大盛り上がり。

3番手は東北代表「トゥーホークシップ」。年季の入ったハーモニーと落ち着いた演奏で楽しませてくれました。

そして最後はまた関東代表「URBAND」。最年長バンドとしてTHE BEATLESやその世代のバラエティーに富んだ曲を聞かせてくれました。

そしてその流れでエンディング。全員がステージに加わり、THE BEATLESの“Hey Jude”を会場と一体になっての大合唱で幕切れ。

今回の建築家大会はARCASIA大会も同時開催されたこともあり、アジア各国をはじめ、アメリカやハンガリーなどの国の方々も約30人くらい来場され、一緒に踊り歌って楽しんでいただけたようです。音楽に国境はありません。各支部メンバーともARCASIAメンバーとも音楽を通じて、言葉だけではできないような交流を図ることができたと思います。

このパーティーの趣旨は交流なので、音楽が特に好きでないという方にも楽しんでいただけるようにと食事や飲み物も提供し、会話ができる時間帯も設けましたが、予想を超えた大盛況で会場がかなり混雑してしまい、そのあたりの余裕がなく、主催者側としては多少残念なところでした。けれどもそういったことを差し引いても会場で見られたたくさんの笑顔から、みなさん楽しんでいただけたように感じています。

次回2019年弘前大会でもバンドパーティーが企画されるという情報が入ってきました。ぜひ多くの方々に足を運んでいただいて、飲んで食べて喋って踊ってと、難しいことは抜きにして、世界共通言語である音楽を通じて、世代を超えた会員同士の交流を深めていただけたらと思います。



関東甲信越代表「すご〜いバンド」 with Mr. NUI from Thailand



四国代表「Knockin' On Shikoku's Door」



東北代表「トゥーホークシップ」



笑顔の会場

法人協力会員サミット

会場：明治大学リパティータワー 1155教室

日時：9月15日(土) 9:00～13:00

協力会員より正会員に 働きかけることを考える

関東甲信越支部交流委員会委員長

河野剛陽



協力会員サミットは全国各支部から参加いただいた方々で、協力会員・正会員合わせて計50名超の協力会員サミットになりました。(右名簿参照)

今回のテーマは、「JIAと強くなる」としました。趣旨としては、協力会員の協力で日本建築家協会が信頼されるべき強い(頼られる)団体になること、そのことがひいては、その団体に所属する協力会員のステータスを上げることにつながるのではということです。

サブテーマを5つ決めて、それについて各グループに分かれてフリートークをしました。雑談の中から、ヒントが出てくればと考えました。サブテーマは、「働き方」「健康」「環境」「防災」「まちづくり」です。各グループ、20分程度議論をして、その後、司会者以外が違うテーブルに移り、違うテーマについて議論をするという、「ワールドカフェ風」の方式を採用しました。参加者全員が自ら話すことが重要でした。それぞれ、何か言いたいけれどどう話してよいかわからないというのが本音ではと感じていました。どのテーブルも活発な議論ができ盛り上がっていたように思います。

私が交流委員長になって3年目ですが、2年前の大阪大会では、「JIAにも物申す」と題して、JIAの会員として協力会員がどう関わっていくかを議論しました。昨年の徳島大会では、「協力会員と正会員の活発な協働に向けて」として、各支部の活動および正会員との交流についての問題点、工夫されていること等のご報告がありました。それを踏まえて今回は、「協力会員より正会員に働きかける」ということを考えてみました。話を聞くだけではなくこちらから仕掛けていくことも大事なのではと考えており、その延長で自分から話す、実行していくという流れを作っていければと思います。



支部	会社名・氏名
北海道	北海鋼機株式会社 佐藤正人／ピーエス株式会社 北海道支店 弘田七重／エスケー化研株式会社 札幌支店 氣田武史
東北	サンボット株式会社 山本博／中村物産有限会社 中村充孝／トーソー株式会社 東北ブロック 佐藤浩／株式会社三洋工業東北システム 小川昌彦／大阪ガスケミカル株式会社 小林勝志／有限会社ガルボ空間工房 齋藤健太郎
関東甲信越	株式会社大建設 長坂典和／前田製管株式会社 大島寛隆／日本ヒューム株式会社 神田健太郎／株式会社ロブテックスファスニングシステム 川邊裕一／株式会社鹿島技研 石橋寿夫、瀬戸秀吉／株式会社三菱地所設計 渡邊顕彦／田島ルーフィング株式会社 綿引友彦／株式会社IAO 竹田設計 河野剛陽／株式会社ニットー 日東英成／株式会社フッコー 杉山成明／三協立山株式会社 垂井豊／株式会社剣持デザイン研究所 長尾俊夫／株式会社日本設計 奥 尉／株式会社みんみん村 田代憲司／小松ウオール工業株式会社 東晃次／株式会社スミノエ 清水康之／タキロンマテックス株式会社 岡本祐／東リ株式会社 峰岸昇／ヒガノ株式会社 古井弘文／株式会社ワイズ・ワイズ 佐藤岳利、立石博巳／株式会社蒼設備設計 相野谷誠志／株式会社きんでん 若佐明継／ケイエスシステム研究所 重岡公二／株式会社中電工 石津浩章／パナソニックES防災システムズ株式会社 山根浩司、荒木重孝／株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所 小内實／三建設工業株式会社 渡部芳博／深滝准一建築設計室 深滝准一／ウエルネス設計 古池廣行／株式会社建築ビボット 井出哲也／株式会社建築資料研究社/日建学院 神島純也、杉原隆史、谷田部博光
東海 (愛知地域会)	株式会社ワーク・キューブ 吉元学／三協立山株式会社 三協アルミ社 中嶋慶一／株式会社エフワンエヌ 中部支店 上村康夫／TOTO株式会社 中部支社 四辻一正／株式会社TJMデザイン キッチンハウス名古屋店 山本恵美／大光電機株式会社 和田信男
北陸 (石川地域会)	株式会社山岸製作所 山岸晋作／北菱電興株式会社 石野哲也
近畿	大光電機株式会社 本多雅親／清水樹脂株式会社 根来正弘
中国	大光電機株式会社 中四国支店 松永高雄
九州	木下緑化建設株式会社 木下浩一

今回の協力会員サミットの開催にあたり、協力いただきました皆様にはたいへん感謝しております。いつもの雑談の中にもいろいろなヒントがありました。いろいろなご意見もいただきまして、ありがとうございました。

「交流」をメインテーマに 5つのサブテーマで議論

フェローシップ委員会委員長

長尾 健



私たちフェローシップ委員会では、大会プログラムの1つとして全国地域会長会議を開催しています。公益事業の最前線を担う地域会活動の一助とするため、59の地域会と、地域会のない北海道支部、沖縄支部の2支部の全61地域の地域会長等に参加していただき、議論を交わし、理解を深める場となっています。今年は「交流」をメインテーマに5つのサブテーマを設定し、それぞれのファシリテーターとなる地域会等の代表者が話題提供を行った後、サブテーマごとのテーブルに分かれて議論を行いました。複数の議論に参加できるよう、またより多くのメンバーと議論ができるようにメンバーの入れ替えを行い、参加者それぞれが3つの議論に参加できるようにしました。

この会議は、それぞれの地域会が試行錯誤しながら多様な活動を展開していることが分かり、その運営の悩みの解決につながる情報のネットワークとなる、地域会運営にとって貴重な場となっています。

〈各テーブルの議論〉

1. 災害(岩手地域会(代理：宮城地域会))

どのように災害に立ち向かい、地域の防災、減災、復興に寄与できるのかを議論。発災後の緊急対応については、自治体および建築三団体が協定を結んでいるケースが見られるが、地域によって協力体制に温度差がみられる。また、ハザードマップ、逃げ地図、防災ハンドブック等の資料作成の報告があったが、有効活用の手法については手探り状態の地域が多いように感じられた。災害発生後の復興計画については、応急仮設住宅の図面作成や仮設住宅の建設場所の検討等を進めているとの報告があった。

2. まちづくり(神奈川地域会)

行政と連携して取り組むにあたり、行政のパートナーが建築他団体となることが多く、JIAの認知が課題となることも多いが、一方でデザイン性を評価され景観アドバイザーとしての役割を果たしているケースもあり、他団体との違いをアピールすることが有効では。

3. 国際交流(北福岡地域会)

国際交流は現時点では、各地域会単独での展開は困難なところも多いようです。トップダウンでもなく、ボトムアップでもなく、中間の支部レベルで、所属する地域会が共有して展開するか、隣接する地域会同士や同じテーマを共有する地

域会同士で、一緒に展開していくのが、全体的に見てふさわしい方法ではないか。

4. 若手育成(沖縄支部)

若手育成をテーマに22の地域会から現在の活動内容や課題などを聞き取り、今後の若手育成活動にどのように取り組んでいくべきかを議論した。聞き取りの中で「活動内容の類似化」があり、地域の特色があまりないことが分かりました。また、「都市部と地方」、「建築系大学の有無」によって、活動内容に違いがあるように思われた。

5. 地域会間交流(愛知地域会)

他地域会と交流することによって自分達の長所・短所を見つけ、各々の活動に生かしていく必要がある。テーマごとに連携をしていくことでJIAの活動が広がり、地域の建築家像を作っていくことに期待したい。上から本部一支部一地域会のピラミッドで表現されるJIAの組織図は全国単一組織を表しているだけであり、すべてを表現しているわけではなく、会員個人対地域会の構図もあるかもしれず、新しいJIAの組織図を考えていくべき。

photo: Koji Uchida



シンポジウム JIA25年賞シンポジウム「25年賞ウラ話」

会場：明治大学アカデミーコモン 10F 310C

日時：9月15日(土) 10:00～12:00

講演者：田村誠邦、大森晃彦、福島加津也

25年賞ウラ話を審査員たちが 赤裸々に語る

25年賞タスクフォース主査

大谷弘明



なぜこの賞はメジャーにならないのかを考えるというちょっと変わったシンポジウムになった。3年前からこの賞は、25年建築選に入った中から25年賞を選ぶ、2階建て方式を採用した。受賞のハードルは相当高く名作ぞろい。この賞は建築家の協会としては異例なことに建築家を表彰しない。そもそも25年以上の経過によって、建築家が老齢になり、時に事務所の存続も怪しくなり、建物がすでにないこともあり、所有者が変わる場合もある。若手建築家たちがこの賞に興味を湧かないのも道理で「若い建築家世代はどのように設計したら将来25年賞を獲れるだろうか？」との問いかけがあった。この日は受賞作の中から「田川市文化エリア」と「大倉山ハイム3～8号館」、「サレジオ学園」の3つを取り上げ、時に意外な作品が浮上するのはなぜかを審査員の方々が語った。

「田川市文化エリア」は行ってみたら目から鱗の建築であり、25年賞とは何かに対するひとつの回答だった。そもそも既存の古い図書館に対する増築した建築であり、はじめから周囲の街との呼応や市民の活動を受け止める器として良い設計がなされていたことが今日の姿につながった。決してメディアを意識してつくられていないことがかえって良かった。

「大倉山ハイム」は集合住宅をどう住みつないでいくかを考える上で重要な事例であり、時間とともに環境が良くなっていく集合住宅の模範。設計時にこれがきちんと構想され、中古の売値が40年経っても竣工時を上回っているという事実には驚いた。集合住宅はもっとも25年賞を取りづらいビルディングタイプだが、これに授賞させないと今後の集合住宅はこの賞を獲れない！

「サレジオ学園」も時間の経過をプラスに転化している。過去の受賞作の中でも最高の1つだろう。新築時「この建築は美しい廃墟になる（廃墟になっても美しい）」と話していた。1980年代には大学教育に「時間軸」を伴ったものはほとんどなかった。ほぼ100年前に始まったモダニズムを（悪意を持って）翻訳すれば「今主義」となる。時間軸に伴う価値の増加にモダニズムは懐疑的だった。25年賞審査にかかわるようになって、時を経た建築の価値とは何かをもっと議論すべきと考えるようになった。新しさと言えばこれまでに見たことのない新しさを求めてしまうが、歴史と連続するという新しさもあるはずだ。

さらに会場からはいろいろな意見が出た。以下に列記する。

- 設計をしたときに25年持たせようという意識は全くなかった。ただし昔勤めていた事務所では持続性を徹底的に叩き込まれた。これ、かつこいいだろうみたいな建物を設計するとどうやって掃除すると問われた。ジャーナリズムは奇をてらった建物ばかりを取り上げる。住宅に関しては25年住み続けられない家は高齢者になってから建て替えるなければならないという理不尽なことになる。「正しく古いものは永遠に新しい」のだ。
- 25年賞では改修案件をどう取り扱うかを考えてほしい。改修してから25年経たないと応募できないというのはその条件を変えたほうが良い。
- 受賞作を見て回る「アーキツーリズム」などを実施することを提案したい。建築ツアーにはすごい力がある。JIAとしてもっと考えてほしい。竣工時に評価するという考え方自体にも問題がある。人の写っていない建物の写真で評価したり、建築家の仲間内で褒め合っているだけではいけないだろう。
- 25年という時間が建物を評価するのに中途半端という話があったが、実は何年経っても中途半端に変わりはない。BELCA賞も投票で決めているので審査方針が審査員によってブレる。でもどんな賞だってブレている。つまり評価にはいろんな軸がある。25年賞もこういうものだと決めようとせず、評価とは多様なものだと考えればいい。
- これからの社会が25年賞的な価値観に向かっていくだろうと思っている。ますます重要な賞にしていきたい。



フォーラム JIA-KIT建築アーカイヴス会議フォーラム 「偉大な先輩建築家に学ぶV」

会場：明治大学アカデミーコモン 8F 308H 日時：9月15日(土) 9:00～12:15

パネラー：青井哲人、岩橋幸治、山岡嘉彌 趣旨説明：仙田 満 司会：上浪 寛

明治大学で教鞭を執った 3名の建築家を知る

NPO建築文化継承機構

うえがいと
上垣内伸一



2013年の北海道大会に始まり、翌年の岡山大会から今の形になった本シンポジウムも、今回で通算6回目を数えるに至った。毎年参加者が増加しており、大会プログラムとして確実に会員に浸透してきている。

「偉大な先輩建築家に学ぶ」シリーズ5回目の本年は、今大会会場である明治大学の建築学科で教鞭を執られた3名の先達—神代雄一郎氏、堀口捨己氏、阪田誠造氏—に焦点を当てて、それぞれの研究者、後継者の方々にお話をうかがった後に、クロストークを行った。

司会の上浪寛NPO建築文化継承機構理事による冒頭の挨拶と主催者である仙田満同代表理事による趣旨説明に続き、明治大学教授の青井哲人氏による「神代雄一郎の「戦後」」が膨大な資料とともに披露された。1922年生まれ的神代氏は、C・ロウ、R・ベンチューリ、村松貞次郎、桐敷真次郎といった名だたる建築史家たちと同世代で、日本ロマン派の詩人でもあった。1966年米国での研究活動から帰国後にデザインサーヴェイを始めたが、当時の流行としてのDSとは一線を画した、コミュニティを探索するための集落調査だったという。その根底には果たして日本に民主主義は育っているのかという日本不信からくるスランプがあり、こののち池田武邦や林昌二ら、さらには村松との論争に発展した巨大建築批判に繋がっていく。この間、あてにしていたアトリエ派建築家や学生らからの応援が得られなかったことで、絶望を感じ家庭が荒んでいたという逸話には胸が痛む思いがした。

続く堀口氏の実務パートナー早川正夫氏の後継者である岩橋幸治氏による『堀口捨己の建築—八勝館のその後—』では、名古屋の豪商の別荘跡地を料亭旅館とした八勝館において、堀口氏の残した数寄屋建築をしっかりと現代に馴染ませながら維持改修する高度な仕事を紹介いただいた。残月の間では桂離宮古書院二の間を参照したのだらうとのエピソードなど、不勉強な身としては大変有意義なお話を聞かせていただいた。

そして坂倉建築研究所所長時代の阪田誠造氏について、直接薫陶を受けた元所員であり現在は同研究所で技術顧問も務める山岡嘉彌氏による「建築家 阪田誠造—寡黙で誠実。多様な相を創出」。阪田氏の生年1928年は建築家の当たり年と言われ、池原義郎、岡田新一、林昌二、林雅子、菊竹清訓、槇文彦といった錚々たる顔ぶれが居並ぶ。創始者坂倉準三氏から西澤文隆氏そして阪田氏へと繋がる坂倉建築研究所は、

組織事務所とアトリエ事務所の中間を意識的に目指し、全ての所員は対等であるという自由闊達な事務所であったという。そのような中で瞬間湯沸かし器のような阪田氏にどうやって同意を得るか、阪田氏のバイオリズムまで調べながら打合せに臨んだという山岡氏の話は、同じような経験をしてきた我が身に重ねて笑うに笑えない思いであった。

その後にパネリストとのクロストークで、DSのその後から所員の教育の話に至るまで多様な意見交換があり、最後に会場からも質疑応答や明治大学OBの懐かしいエピソードなどで一同大いに盛り上がった。

冒頭に、年々このシンポジウムの参加者が増えてきていると書いたが、まだその過半はテーマ建築家を直に知る世代であり、もっと直接を知らない若い世代にこそこの話を聞いてほしいと強く願うものである。とにかく若い世代にとっては新鮮で面白い話ばかりなので、ぜひ来年の弘前大会では手のいっそうの参加を期待したい。



会場：明治大学アカデミーコモン 10F 310G 日時：9月15日(土) 10:00～12:00

パネリスト：幡野寛治、梅津章子、渡邊義孝 モデレーター：大橋智子

被災した「登録有形文化財」建築の 再建と活用事例から学ぶ

関東甲信越支部再生部会部会長

大橋智子



再生部会は1998年に設立以来、価値ある建築を長く使い続けるために建築家に何ができるかをテーマに活動してきました。2013年からは東京弁護士会歴史建造物部会と共同で「既存建築を使い続けていくための諸制度見直し研究会」を発足させ、建築基準法3条1項3号、いわゆる「その他条例」の研究を行い、その成果は『今、ある建物をこれから使い続けていくために』の冊子にまとめました。

今年再生部会は文化庁の「登録有形文化財」制度を勉強し、部会員が実際に関わって登録された建築を見学したり、所有者の話の聞いたりしました。その中で宮城県気仙沼「風待ち復興検討会」の取り組みが、この制度の本来の目的が実行された好例と着目し、シンポジウムを開催しました。「登録有形文化財」は阪神淡路大震災で多くの歴史的建築が取り壊されてしまった残念な経験から、指定文化財になっていなくても歴史的に価値のある建物をあらかじめ登録しておくという文化庁の制度です。

気仙沼には「風待ち」と呼ばれる港町があります。大正、昭和初期の二度の大火に見舞われましたが、その後復興した美しいまちなみを、地元の建築士たちがまち歩きを通してマップを作ったり、所有者に説明して「登録有形文化財」に登録するなどの活動を行ってきました。気仙沼は2011年の東日本大震災で大きな被害を受けましたが、所有者と専門家、行政が一体になり、「風待ち復興検討会」を発足し、「登録有形文化財」の解体、登録抹消を回避し、修復活用する活動を行っています。再生部会ではその活動を知り、早速現地を訪問し、詳しい経緯を聞きました。



シンポジウム会場で発表を行う梅津氏（右）と幡野氏（左）

シンポジウムには気仙沼より「風待ち復興検討会」事務局で教育委員会の幡野寛治氏に震災前の活動から震災後、現在に至る経緯を発表していただきました。次に、被災前から気仙沼とも関わられてきた文化庁文化財調査官の梅津章子氏に、来年度から改正される文化財保護法の改正ポイントを解説いただき、改正後の専門家の関わり方をうかがいました。そして当会のメンバーでもあり「尾道空き家再生プロジェクト」理事の渡邊義孝氏から尾道の実例を紹介していただきました。尾道の実例は気仙沼でも参考になることが多く、内湾の港町という風景も共通点がありました。

会場に集まった方々は文化財建造物の保護に実際携わったり、関心を持っている方が多く、具体的な質問も多く寄せられました。準備した50席はすべて埋まり、高い関心を持っていただきました。

今後も再生部会は文化財建築を核とした気仙沼風待ち地区の復興に注目していききたいと思います。



魚町の角星店舗 津波で流されたが、元の位置に戻し再建



武山米店2階で座敷の説明を行う風待ち復興検討会菅原会長

フォーラム 世界から見た日本の建築家資格制度

会場：明治大学アカデミーコモン 10F 310H 日時：9月15日(土) 9:30～11:00

パネリスト：瀬口哲夫、河野 進、安達治雄 司会：近藤 昇

若い建築家を育てる建築家資格制度

職能・資格制度委員会委員長

内野輝明



パネリストの3名からは建築における利益相反について、以下のようなお話があった。

瀬口哲夫氏（名古屋市立大学名誉教授）

日本では法律上、建築士の業務独占を認めつつも設計事務所の経営者は独立した立場である必要はなく、利益相反が発生しやすい。ドイツなどはフリーアーキテクトは保険加入の義務があり、施主への責務や公正性は倫理規定で担保。スペインでは日本の弁護士会と同様、職能団体に加入しないと業務ができず、大学は6年生の最後の2年が実務研修、設計監理のほかマネジメント・契約・倫理・責任の担保なども学び、卒業後すぐに資格試験を受験、実務研修の各項目の習得レベルを確認する。英国は建築事務所と大学が連携し、システムティックに実務教育をしている。日本は実務教育の内容が曖昧で、資格試験にも倫理などの項目はない。

スポーツ界の閉鎖的体質が話題になっているが、日本はどの分野も癒着社会の傾向がある。利益相反を避け専門にこだわるJIAにとって、今こそ癒着社会指弾の声明を出す絶好の機会。

河野進氏（建築家認定評議会議長）

江戸時代、大工は設計施工一貫だった。明治になり、大工とは違う職能の人たちが現れた当時から、法律でArchitectの

資格をつくろうという流れはあった。終戦後に建築士法ができたが、利益相反については規定がなく、ここが日本の建設界が国際化する際の支障となっている。日本では設計者の専兼については自由で、施主が選ぶものとなっているが、設計業務も変容してきており、専兼の議論も多様化してきている。

安達治雄氏（JIA 職能・資格制度前委員長）

公益を言うなら施主が選ぶのではなく、利益相反を生まない仕組みと法を補完する職能規定が必要。保険加入を義務化し、倫理規定を定め、その違反への処罰を厳格化することが建築家の信頼性につながる。

新庄宗昭氏（『落日の建築家』の著者）

この手の話は、木を見て森を見ないことにならぬよう。JIA年鑑の作品は一部の建築家の仕事であって、ゼネコン設計部も入った学会年鑑のほうが建築界全体の今日であると認識すべき。

この会場からの発言を契機に話題は未来へと向かい、やはり重要なのは教育であり、建築は文化であって、その質や中身をお金で決める設計入札はおかしい、と教えるべき。また、建築家資格制度の推進は、2000年ごろ近畿支部で運動が始まってもうすぐ20年、この制度は若い世代を建築家へと育てるものだということを再認識したい。

photo: Koji Uchida



左から、近藤氏、瀬口氏、河野氏、安達氏

全国統一の相談カードや 相談結果のデータベースを活用

建築相談全国会議議長

樋口芳文



1. JIA 建築相談全国会議のまとめ

全国統一の相談カードで、相談結果のデータベースを活用し知的な蓄積を図りたい。

2. 相談会議の進め方

あらかじめメール受領の情報・意見を紹介し、出席者発言を得た。

3. 大竹司人（関東甲信越支部）

- ・首都圏建築相談室は、毎月8～10回、3件／回の面談実施。
- ・公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センターと提携、相談対応。
- ・JIA 建築相談の記録蓄積と、全国で閲覧可能を図るため、試行中。
- ・JIA 建築相談の役割と位置付けは、事前相談／各種課題支援。

4. 中村正樹（近畿支部（大阪地域会））

- ・地震等災害発生後のJIA 建築相談委員会の対応。
- ・6/18発生の大阪北部地震に際し、大阪地域会・建築相談委員会の対応。
- ・臨時建築相談会の集中開催：相談員メンバー臨時増員対応。
- ・応急危険度判定や行政側との連携等で、JIA 会員の意識が希薄？

5. 堤 敏明（中国支部）

- ・現地調査員の「紹介」は、個人的に違和感があり、他支部の状況を知りたい。
- ・広島で災害で危険度判定・罹災証明に協力したが、整理が必要。
- ・現地調査は、有償で良いのかという迷いあり。

6. 清水孝昭（東海支部）

- ・一般消費者から相談があれば、設計者を紹介している。
- ・ビル内装改修工事の総合監理業務（コンストラクション・マネジメント）希望あり。

7. 有吉兼次（九州支部）

- ・九州支部は年20件ほどの相談で、約半数が福岡地域会。
- ・市役所の依頼を受け市役所で対応している。全国統一の相談カードで対応したい。
- ・北九州は、建築住宅相談センターが6団体を束ね相談対応。

8. 川村弥恵子（北海道支部）

- ・河川土木事務所からの相談で、本部指示を仰いだ。
- ・業務依頼は全会員に希望者を募り、会員が相談者との面談

対応。報酬は時間単位としている。

9. 塩田純一（関東甲信越支部）

- ・ブロック塀問題は、災害対策委員会連携で体制を創りたい。
- ・相談結果のデータベースを活用し、知的な蓄積を図りたい。
- ・若い人が入らず、大変。

10. 川津悠嗣（九州支部）

- ・自身が被災者になったら近い地域会と連携が必要である。建築相談は保存再生と共通点が多い。
- ・災害時の横の繋がり、データベースができればよい。出力だけでも対応が分かる。
- ・災害時土木主体だが、我々はどう役立てるか？

11. 樋口芳文（東北支部）

- ・筒井信也 JIA 専務理事が見えたので、JIA が建築学会と同様の司法支援はできないかと問い合わせをした。



シンポジウム JCCA×JIA協働シンポジウム「誰が景観を創るのか？」 12回

会場：明治大学アカデミーコモン 2F ビクトリーフロア

日時：9月15日(土) 13:00～15:30

◆基調講演 講演者：平賀達也

◆パネルディスカッション コーディネーター：福井恒明 パネラー：平賀達也、宿本尚吾、岡田智秀、赤松佳珠子

多様な現代における土木と建築の融合を考える

関東甲信越支部都市・まちづくり委員会委員長

亀井尚志



建設コンサルタンツ協会(JCCA)美しい国づくり専門委員会と日本建築家協会 都市・まちづくり委員会は、土木分野と建築分野が協働して、より良いまちづくり、景観づくりを行うために「誰が景観を創るのか？」と題した協働シンポジウムをこれまで11回開催し、議論を重ねてきました。

基調講演

このシンポジウムは3回を一括りとしてテーマを決め、第10回から第12回のテーマを「多様性と融合」としています。

このテーマのまとめとなる今回は、平賀達也氏(ランドスケープアーキテクト連盟副会長)に「グローバルに支持される、ローカルな価値づくり」というテーマの基調講演をしていただきました。

平賀氏は、自然環境の変動というグローバルな共通課題の中で、ローカルな課題としての社会基盤維持の考え方として、「グレイインフラからグリーンインフラへ」という持続可能なインフラ整備が必要であること、近代の都市社会を作る中でおさなりにされてきた「バイオフィリックデザイン」を取り戻すことが重要であることを紹介されました。

また自身の関わられたプロジェクトとして、「Tokyo Olympic 2016 グランドデザイン」では、東京が世界最先端の環境技術と日本ならではの自然観によってサステナブルな都市環境を実現できれば、都市問題の解決に悩む人類全体への大きなギフトになると考えたこと、「としまエコムーゼタウン(新豊島区役所)」では、豊島区の地形構造から庁舎のデザインコンセプトを導くことでともと豊島区にあった環境を取り戻すことを試みたこと、「南池袋公園」では、旧河川の源流にある3つの公園によるグリーンループ構想や、「南池袋公園をよくなる会」の仕組みを構築することで制度改正のきっかけを作ったこと等を披露されました。

パネルディスカッション

基調講演に引き続き行われたパネルディスカッションでは、福井恒明先生(法政大学)をコーディネーターとし、平賀氏、宿本尚吾氏(前豊島区副区長)、岡田智秀先生(日本大学)、赤松佳珠子先生(法政大学/CAIパートナー)の土木系、建築系の方々により、「多様性と融合の先にあるもの」をテーマに、①社会的期待を実現する(土木・建築)一体の職能集団として何をやるべきか、②実際のプロジェクトでは目標の共有と価値観の総合理解に基づく職能協働が必要だが、その手掛かりは何かという2つの論点について議論が展開されました。

福井氏…土木分野の懺悔として標準的なもののばかりで作る流れが重視されてきたが、前提条件の共有、気持ちを合わせることが重要。公共発注について現状発注の自由度がなく、行政内の動きにくさを打開する必要がある。

平賀氏…スペシャリストかつゼネラリストであることが重要。ローカルアーキテクトは、地域と共に生きていく覚悟が必要。土木・建築の学生がものを作ることに悲観的になっている。AIやIoTの台頭により設計は縮退産業となることへの覚悟を持つとともに設計者の存在意義を示す必要がある。一方、ランドスケープ分野の懺悔として「自然」という言葉を使いすぎていること(自然という幻想)を挙げ、地球活動は変わりゆくのがほとんどで生態系(自然)を守ることは難しく、やるべきことは未来にふさわしい知識を残していくこと。

宿本氏…豊島区での官民連携による事業を紹介。区(自治体)の考え方を受注者と共有して行うことが重要。外部の人に「行政の人間」として入りこんでほしい。行政の専門家が減少しており、学生に役所に来てほしい。

岡田氏…日常の豊かな暮らしと防災をどう共存させるか。「両義的空間」がデザインとして大きな価値を生むのではないか。公共工事について、前提条件(制度)を疑ってみること、発注者に現場を知ってもらい発注者と受注者の融合を図るべき。

赤松氏…釜石の小学校や渋谷ストリームを紹介しデザインの持つ力の大きさを問う。建築家の職能が変化。以前は設計だけで良かったが、今はワークショップをやって意見をまとめて作る総合プロデューサー的な役割を果たす必要がある。

最後に福井先生からまとめとして、「プロセスさえ良ければ」という考え方は駄目で、クオリティを高める議論が不可欠というお話がありました。

今回のシンポジウムも多様な現代における土木と建築の融合について考える良い議論がうかがえたと思います。



コンペ 第12回建築家のあかりコンペ2018 公開2次審査・表彰式

会場：明治大学アカデミーコモン 8F 308F 日時：9月15日(土) 13:00～17:00

審査委員：手塚貴晴（委員長／手塚建築研究所／東京都市大学教授）、平田晃久（京都大学准教授／平田晃久建築設計事務所）、羽鳥達也（日建設計）、永山祐子（永山祐子建築設計）、面出 薫（Lighting Planner Associates）、前芝辰二（大光電機代表取締役社長）

夢と実現性の合致を求めて

JIAあかりコンペWG主査

松村哲志



建築家のあかりコンペは今年で12回目を迎えました。今年はこれまでで最高の135作品が集まり、8月中旬には全審査員が集合して厳正な1次審査が行われ、2次審査に進む7作品が決定されました。何よりも驚いたのはこの時点で通過しなかった作品も含めて力作ぞろいで大変レベルが高かったことであります。手塚審査員長が投げかけたテーマは「見えないスタンド」。製品化を目指すコンペにおいて難解な禅問答のように見えるこの課題にどう答えるかがポイントでした。多くの作品が、その一見矛盾にも思える課題を設定くださった手塚審査員長に、そして、そこに果敢にも答えてくれた全応募者に、その実力伯仲の作品の中から7作品を選んでいただいた審査員の皆様に感謝を申し上げます。選ばれた7作品はどれも素晴らしく、2次審査での活発な議論を予感させるものであります。

建築家大会最終日の午後に行われた2次審査もその空気を反映した素晴らしい内容でした。2次審査に進んだメンバーは、20歳前後の学生からすでに建築家として活躍されている設計者まで幅広いメンバーが集まりました。1次通過からの実質3週間という短い期間でモックアップを製作し持ち込んでくださった入賞者の皆さんのおかげで大変有意義な議論が展開されました。

最後まで最優秀賞を争ったのは2つの作品です。1つはペンをあげると点灯するペン立ての形をしたデスクライト。ホテルのラウンジや空港など使用するシチュエーションが明快であり、使用した際の風景が浮かぶ作品でした。もう1つの作品は線香の立ち上がる煙をLEDで照らすという照明。照らされ立ち上がる煙を見ているとなんともいえない落ち着いた気持ちになっていきます。現代におけるスタンドは照度を

photo: Koji Uchida



入賞者、審査委員、委員全員での記念撮影

最優秀賞

佐藤誠司氏・庄司智子氏

「あかりを求めると現れるスタンドライト」

優秀賞

坂本史織氏「線香ライト」

佳作

松尾兆郎氏、殿村健太郎氏、増田忠史氏・蜂谷伸治氏、赤崎健太氏・Astrid Vanhuysse氏、甲斐大貴氏

DAIKO賞

殿村健太郎氏「HoTaRu」

確保するということとは違う何かを持たねばならないのでは？とさえ考えさせられる作品でありました。最終的に白熱する議論の末、以下のような結果となりましたがどの作品も素晴らしい議論につながる作品ばかりでした。

このコンペは2次審査モックアップ必携ということに象徴されていたように思えます。その代表的な特徴は以下の2点です。

- ・製品化の可能性があり、実施を目指したコンペ
- ・プロダクトとはいえ、建築家が審査するため建築、空間についての議論が中心

建築家は空間や社会、生活を意識するあまり、その案は時に壮大なものとなることもあります。その中で実現という社会実装を目指してこそ建築家ではないでしょうか？その可能性を長きにわたりコンペという形で提供してくださっているDAIKO様に感謝するとともに我々建築家はよりいっそう、夢と実現性の合致を目指していかなければならないと強く感じました。



記念撮影入賞者審査員委員



モックアップに集まる審査員

エクスカーション JIA文化財修復塾主催「継がれる建築家の意思」

上野東京文化会館集合 日時：9月15日(土) 13：15～18：30

上野山周辺の歴史的建造物をめぐって



山田健太郎

当日は、あいにくの小雨模様であったが、スタッフを含め30名近くの参加で、とても賑やかな見学会になった。

15日午後、東京文化会館前に集合した私たちが美しい螺旋階段を上って最初に向かったのは、一般公開されていない屋上。外に出ると自然石が打ち込まれた巨大なPCの外壁が目の前にあった。石は小さなものでも大人の拳ほどある。パラペットの裏側に回ると、リズムをもって軽やかに配置されたリブで支えられていて、下から見る重厚さとは全く違った印象に、皆から驚きの声上がる。眼下には行き来する人の流れ越しに西洋美術館のファサードが広がり、これもまた素晴らしい。

私たちはこの後、国立西洋美術館・国立科学博物館・京成博物館前駅・黒田記念館・国際子ども図書館・奏楽堂・東京都美術館、そして清水観音堂と、高密度に巡っていく。また歴史的な建物を鑑賞するだけでなく、実際にどのような維持・保全・活用がなされているのかを丁寧に学んでいった。解説は会員の市川達夫氏で、建物に関わる多くの事柄だけでなく、上野の山に関するあまたの歴史的知識を披露してくださった。



東京文化会館



国際子ども図書館の前で

清水観音堂から不忍の池を渡り旧岩崎邸に向かう。現在外壁塗装の修理中だったが、洋館・和館とも内部をじっくりと見学できた。さらに非公開の地下通路を通して別館に行くこともできた。旧岩崎家の絶大なる財力と若きJ.コンドルの膨大なる情熱がこめられた建物であった。松井修一氏(元都立旧岩崎邸庭園サービスセンター長)から各部隅々にわたり緻密な解説をいただいた。

次は国立近・現代建築資料館である。会員であり職員でもある桐原武志氏と職員の藤本貴子氏の解説で、現在進められている近代の巨匠たちの図面・スケッチ・蔵書などを修復し整理し保存する現場を案内していただいた。最後に今年の収蔵品展「建築からまちへ1945-1970」を堪能し見学会は終了した。

JIA文化財修復塾は、文化庁が提言した被災文化財を救援する活動「文化財ドクター派遣事業」に参加するための資格講座として2015年度に開始。歴史的建築文化を継承していくために、建物を修理・維持・活用する設計技術者を育成し、今後の保存修復事業の中心的担い手として活動していくことを目標としている。2018年秋現在、塾修了者は全国に73名。昨今の大きな地震や風水害の際に迅速な初動体制をとるには、各地に十分な数の技術者が必要であり、皆さんにもぜひ参加していただきたい。



旧岩崎邸 洋館(左)と和館(右)

展示

JIA2017各賞展示

会場：明治大学アカデミーコモン 1F

日時：9月14日(金)・9月15日(土)



大井町駅前パブリックスペース 設計コンペティション作品展示

会場：明治大学アカデミーホール
ホワイエ

日時：9月14日(金)・9月15日(土)

photo: Koji Uchida



第12回建築家のあかりコンペ2018 作品展示

会場：明治大学アカデミーコモン 8F
310H

日時：9月14日(金)・9月15日(土)



会場

〈メイン会場〉

■明治大学 駿河台キャンパス
アカデミーコモン

東京都千代田区神田駿河台1-1

<http://www.meiji.ac.jp/>



〈クロージングパーティー会場〉

■建築家会館

<http://www.kenchikuka-kaikan.jp/>

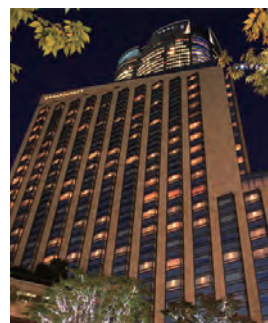


〈レセプションパーティー会場〉

■グランドハイアット東京

東京都港区六本木6-10-3

<https://tokyo.grand.hyatt.com/ja/hotel/home.html>



グッズ



うちわ



クリアファイル



ピンバッジ



缶バッジ



コンgresバッグ



主要商品

【AXSP】高強度ウレタン・ゴムアス複合塗膜防水
 【クリスタルハード】コンクリート化粧仕上げ
 【エフユニックス】浴室改修 FRP 防水
 【リフェイス】外壁・床石貼再生工法

株式会社 エフワンエヌ

本社：大阪府茨木市星見町 22-11 ☎072-630-2880
 拠点：東北・北関東・東京・南関東・中部・中国・九州
 海外：台湾・韓国・中国・ベトナム・タイ・ミャンマー・フィリピン
 URL <http://FoneN.co.jp>

Kawasaki
Powering your potential



平成29年度 優秀省エネルギー機器表彰
 日本機械工業連合会 会長賞 受賞

Efficio
エフィシオ

二重効用吸収冷温水機
 世界最高効率機

N Z 型
 COP1.51 (JIS基準)



L2-Tech
 2017 summer (環境省)



「快適」をあなたの現在と未来へ

川重冷熱工業株式会社

かわじゅうれいねつ 検索

東日本支社 電話 (03) 3649-1401
 中日本支社 電話 (052) 509-1850
 西日本支社 電話 (06) 6325-0303

SANKEN
 ENVIRONMENTAL ENGINEERING

人と空気と水の
 環境創造



求められる環境を、望まれたカタチにする。
 三建設備工業は豊富な実績と確かなノウハウで
 常に最適環境を創り出します。
 空気と水、そして、人… この技術を「全て」のために。

空気と水の環境創造企業

三建設備工業

<http://skk.jp/>

SANSHIN

ハーディグレーチングフロー
 フルフラットタイプ
 (ボルト収納型グレーチングフロー)



床は平らが良い

平らな床は美しく、安全で機能的

安全性：つまずかない、引っかからない
 施工性：溶接不要、上面取付
 機能性：機器レイアウトに干渉しない



三進金属工業株式会社 本社・工場 (大阪府) 福島工場 (福島県)
 事業所 ■北海道支社 ■東京支社 ■中部支社 ■大阪支社 ■九州支社

Living Together

共生をテーマに、人と環境の理想的な未来を



さわやかな世界をつくる



新菱冷熱工業株式会社

本社 東京都新宿区四谷2-4

TEL (03)3357-3654

総合資格学院は学科試験も
設計製図試験も「日本一」の合格実績！



全国 平成29年度 設計製図試験
合格者占有率

全国 平成29年度 学科試験
合格者占有率

63.7%

全国合格者3,365名中、
当学院当年度受講生2,145名
＜平成29年12月2日 現在＞

52.7%

全国合格者4,946名中、
当学院当年度受講生2,607名
＜平成29年9月13日 現在＞

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

無料 体験入学会・講座説明会 実施中!! 詳しくは総合資格各校までお気軽にお問合せください

1級・2級 建築士	構造設計1級建築士	設備設計1級建築士	建築設備士	インテリア コーディネーター
1級・2級 建築施工管理技士	1級・2級 土木施工管理技士	1級・2級 管工事施工管理技士	宅地建物取引士	賃貸不動産 経営管理士

総合資格学院

東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル22F
TEL.03-3340-2810

スクールサイト www.shikaku.co.jp
コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp



おかげさまで
「1級建築士合格者数日本一」
を達成し続けています。
これからも有資格者の育成を通じて、
業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院 学院長
宍 隆司



アウトドアライト

ZERO
LANDSCAPE LIGHTING ZERO

ベーシックなフォルムに最先端のLED照明技術と
最高の質感を持つワンランク上の屋外照明シリーズ



[ZERO]スペシャルサイトURL
<http://www.lighting-daiko.co.jp/zero/>

SERIES LINE UP

□ SPOT LIGHT □ LOW POLE □ MIDDLE POLE □ BRACKET □ FOOT LIGHT
□ GROUND LIGHT □ INDIRECT LIGHT □ CEILING LIGHT □ DOWNLIGHT

重耐塩仕様
標準化

塗装色の別注
同一価格

大光電機株式会社

商環境営業部/Tel.(03)5600-7793 Fax.(03)5600-7794

〒130-0026 東京都墨田区両国4-31-17

DAIKO
<http://www.lighting-daiko.co.jp>

中部電力グループ



明るく
心地よく
トーエネック

快適以上を、世の中へ。

TOENEK

電気設備工事

空調管設備工事

省エネ住宅設備工事

情報通信工事

エネルギー事業

株式会社 トーエネック

東京本部 東京都豊島区巣鴨1-3-11 TEL.03-5395-7111
www.toenec.co.jp

資格と講習、歴史と実績。

日建学院

<http://www.ksknet.co.jp/nikken>

株式会社建築資料研究社 東京都豊島区池袋2-50-1

【日本の建築を支える】
100年技

1922-1931年の
創業から間もなく100年。
アスファルト防水の
革新者として続いた。
信用と信頼をお客さまに
お届けします。

NISSHIN

防水のスペシャリスト、日新工業。

www.nisshinkogyo.co.jp Specialist for Waterproofing, NISSHIN KOGYO

KOGYO

総合防水材料メーカー
日新工業株式会社
NISSHIN KOGYO CO., LTD.

〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4
2-23-4, Senju-Azumita, Adachi-ku,
Tokyo 120-0025, Japan
Tel. 03-5892-2571

□札幌 / Sapporo
□仙台 / Sendai
□東京 / Tokyo
□横浜 / Yokohama

□名古屋 / Nagoya
□大阪 / Osaka
□広島 / Hiroshima
□福岡 / Fukuoka

優れた性能と豊富なラインナップにより、工場・倉庫や商業ビルをはじめ、
公共施設など様々な建築物でNISCの外装パネルは活躍しています。

日鉄鋼板の金属サンドイッチパネルシリーズ

耐火インバンドPro® **インバンドBL®**
インダッシュR® **ニスクボード®**

※耐火インバンドPro®、インバンドBL®、インダッシュR®、ニスクボード®は日鉄鋼板株の登録商標です。

日鉄鋼板株式会社
<http://panel.nisc-s.co.jp>

お問い合わせ先
パネル建材営業部
TEL 03-6848-3800

Panasonic

建築に自由を与える。

SmartArchiは、建築の創造性を大きく広げていく
照明でありたいと考えます。輝度で考える照明設計、
デザイン、そして光の質という3つの視点から、照明
の可能性を追求しつづけます。

Slm Base LED L1200
半埋込タイプ

GOOD DESIGN

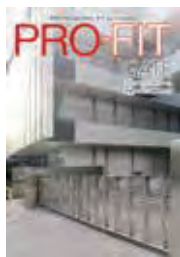
SmartArchi
Architectural Lighting

Panasonic LED

パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 エンジニアリング総合部 照明デザイン部
〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号 TEL.03-6218-1010
A Better Life, A Better World

PRO-FIT[®]

by HIGANO



ゲート
電動/手動 大型門扉



FENCE for GATE
ステンレスデザインフェンス



連結美底(ひさし)
ハニカム ステーパー/キャンチ



インテリア
傘立て・消火器ボックス・ベンチ



ムーブボラード
移動型車止め



レインカットECO
傘のしずく落とし



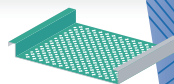
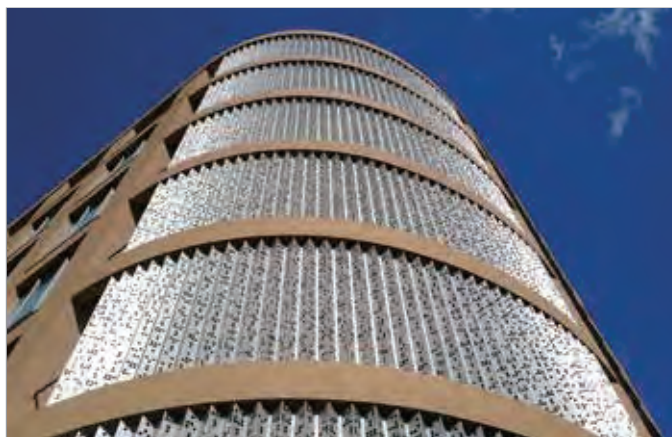
ヒガノ株式会社

HIGANO

本社・工場
〒340-0002 埼玉県草加市青柳3-24-7
Tel 048-931-3321 Fax 048-931-7332
e-mail: info@higano.co.jp

東京営業所
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸屋町1-1-9
ヒガノ日本橋ビル
Tel 03-5623-3889 Fax 03-3662-7778

プロ・フィット製品がオールラインナップ www.higano.co.jp



MAX KENZO 株式会社

金属屋根・金属有孔パネル 製造メーカー

本社：神奈川県横浜市鶴見区駒岡 2-17-13
TEL: 045-583-8666

新しい時代の基礎づくりのパートナー
～「緑の下の力持ち」として～

【営業品目】

OMR/B工法(バケット式2.2倍拡底杭)
OMR/A工法(リバーズ拡底杭)
KCTB杭工法(場所打ち鋼管コンクリート杭)
つばさ杭工法(回転貫入鋼管杭)
構真柱建込工法
SSD工法(岩盤掘削・地中障害撤去)
HYSC工法(鋼管ソイルセメント合成杭)



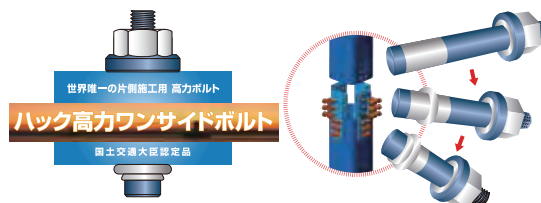
杭のことなら、お気軽にご相談ください！



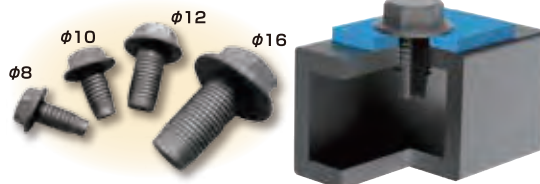
〒135-0016 東京都江東区東陽 6-3-30
丸五基礎工業株式会社 東京支店
URL: <http://www.marugokiso.co.jp>
TEL 03-3649-5131 FAX 03-5690-7091

片側施工用高力ボルト 国土交通大臣認定品

ハックワンサイドボルト



独自ねじ形状の
タッピングボルト **シュアツイスト**



独自のねじ形状によって、
高い接合強度が得られます。

<http://www.lobfs.com/>

LFS 株式会社 ロブテックスファスニングシステム

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-5-11 堀留Dビル5階
Tel. 03-5847-4100 Fax. 03-5847-4101

azbil
アズビル株式会社

 **ITOKI**

内外の環境性向上、内装高級装飾、省力化、省エネ化
健康・安心・安全・快適な環境・空間を創造する
エスケー化研は、技術革新を推進し、未来へつなげる新型製品を提供し続けます。



建築仕上材の総合メーカー
エスケー化研株式会社 SKKAKEN 本 社：大阪府茨木市中穂積 3-5-25 ☎072-621-7733 <http://www.sk-kaken.co.jp>

詳しくはホームページをご覧ください



 **オイルス ECO株式会社**



排煙窓開閉装置
自然換気システム
外付ブラインド



外付ブラインド

OKamura
株式会社オカムラ



鹿島技研

 **KANSAI
PAINT**

 **METAL ARCHITECT
KIKUKAWA**



Kinden
CORPORATION

建築・環境ソフトウェアの開発・販売

 株式会社 **建築ピボット**

 壁が動くということ

大/壁/壁/壁/壁
小松ラノニク

小松ウォール工業株式会社 ☐ 本 社/石川県小松市工業団地1-72 ☎ (0761)21-3131
<http://www.komatsuwall.co.jp/> ☐ 東京市場開発部/東京都千代田区三番町8-1 ☎ (03)3263-2771

 **三協立山株式会社**

 バク
クリーンな地球を、
バトンタッチ。

空気が流れて雨になり、その雨が雲をつくり、水をつくります。
だから、もっと空気や水を身近なものと感じて欲しい。
そして、もっともっと地球環境に眼を向けて欲しい。

空冷調製・衛生設備・リノベーション ☐ 本 社
 株式会社 **三昇空調** 〒530-0047 大阪市北区西天満3-13-20 ASビル
<http://www.sanryo-air.co.jp> TEL:06-6363-1671 (代)

**リチウムイオン電池搭載
直流電源装置**

 **GSYUASA**
Next to you

消防法認定

DC100V 系



TRUSTAR-LIM

お問い合わせ先：(株)GS ユアサ 東京第二営業部 ビル施設グループ
TEL:03-5402-5823、FAX:03-5402-5833

 **スミノエ**



本社 / 〒652-0882 神戸市兵庫区戸原通1-2-26
Tel:078(651)6272 Fax:078(651)6276
東京支店 / 〒108-0073 東京都港区三田3-1-9 大坂家ビル7F
Tel:03(5476)2371 Fax:03(5476)0881
大阪支店 / 〒550-0013 大阪市西区新町1-7-5 YotsubashiGTCBldg301
Tel:06(6539)9608 Fax:06(6539)9658
ホームページ / <http://www.sowa-chem.co.jp>

私たちの技術が我が国のスポーツ施設を支えています。

体育館・武道場

鋼製床下地材 **ジム・エース**



株式会社 染野製作所

URL <http://www.someno.co.jp>

東京支店: 〒144-0051 東京都大田区西蒲田7-60-1 染野ビル2F
TEL.03-3735-4891 FAX.03-3736-9797

本社・工場: 〒300-1231 茨城県牛久市猪子町648
TEL.029-872-3151 FAX.029-873-3330

営業所: 札幌・仙台・大阪・名古屋・北陸・広島・福岡

ユニット式セダム緑化システム **VUS500**
あらゆる屋根に簡単安心緑化



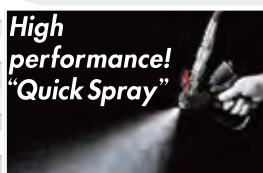
独創の技術が明日を拓く

大日化成株式会社

<http://www.dainichikasei.co.jp/>



DYFLEX



この **Response** が
強さを生み出す。

その **Potential** に
期待は広がる。

株式会社 **ダイフレックス** 東京 **03-5381-1555** 大阪 **06-6292-0511**
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル25F 秘書室6086号 営業推進チーム / 東京支店 / 大阪支店 / 名古屋支店 / 札幌 / 仙台 / 新潟 / 金沢
さいたま / 千葉 / 多摩 / 横浜 / 広島 / 福岡 <http://www.dyflex.co.jp>



大洋基礎株式会社
TAIYO FOUNDATION CO.,LTD.

膜構造・膜天井

MakMax
太陽工業株式会社

空間デザインカンパニー

www.taiyokogyo.co.jp

〒154-0001 東京都世田谷区池尻 2-33-16 電話 03-3714-3461

屋根で守り、
床で支える。



TAJIMA

www.tajima.jp

建物に快適パフォーマンスを。



CHUDENKO

中電工

More Smoothly!

Tendo

www.tendo-mokko.co.jp



チェア & テーブル「bambi」



東洋テクノ株式会社



東リ株式会社

<http://www.toli.co.jp>

東日本営業開発部

Premier High-end Interior



株式会社 豊田商店

業務用厨房機器総合メーカー



株式会社 中西製佐所

新商品

安全性を追求した
未来標準の自動ドア

ナトラス NATRUS 誕生



JIS A 4722 対応製品

維持コストの削減が可能な NATRUS 専用保守契約プランも同時発売



ナブコシステム株式会社



株式会社 西原衛生工業所



SINCE 1919

日本ドアーチエック製造株式会社

東京本社 〒110-0012 東京都台東区竜泉1丁目27番9号 TEL(03)3871-1411(代)
大阪本社 〒544-0014 大阪市生野区箕東3丁目17番10号 TEL(06)6758-1251(代)
札幌・仙台・静岡・北陸・名古屋・広島・高松・福岡 URL <https://www.e-newstar.co.jp/>

融解性能No.1の

氷蓄熱ユニット アイスチラー[®]

日本BAC株式会社

BAC JAPAN CO., LTD.



アイスチラー[®]は、
お客様の要求を満足します



不二サッシ株式会社

<http://www.fujisash.co.jp/>

不二窯業株式会社
FUJITSU KAMAYAKI CO., LTD.



ARCASIA Award for Architecture 2011-2012
Kohitsuji no Mure Christian Church/ Church of the Wind
Kazuo Matsuo JJA
Exterior finishing material: FMX (FUKKO Co., Ltd.)



多彩な建築表現、原点は素材です。

株式会社 フックコー

本社・工場

〒406-0812
山梨県笛吹市御坂町下黒駒 1611 金川工業団地
TEL.055-262-2111 FAX.055-262-9101
URL <http://www.fukko-japan.com/>

simple & natural
office furniture

MARU

プラス株式会社 ファニチャーカンパニー
<https://kagu.plus.co.jp/>

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 九段センタービル11階

Webサイト



BX 文化シヤッター

ホクセイは、日本で最初に
ステンレス製グレーチングを
製造・販売した会社です。

ステンレス アルミ
土木 建築 総合金物

<本社・工場>
〒511-0836
三重県桑名市大字江場三
丁目118-26番地
TEL: (0594) 21-9660
FAX: (0594) 21-9676
www.hokusei-m.co.jp

建築・土木資材総合製造・販売・設計
ホクセイ株式会社

<東海営業所> <大阪営業所>
<福岡営業所> <仙台営業所>



Think Next Security



MIWA



美和ロック株式会社

建物とグリーンエコ



minmin mura

みんみん村



yamada

山田照明株式会社



UNION www.artunion.co.jp

心のこもった仕事 そして 信頼される仕事を



<http://www.biluken.co.jp>

横濱ビル建材株式会社

階段のヨコモリで **リニューアル** も

BEFORE AFTER




マンション計画修繕施工協会
MKS 賛助会員

株式会社横森製作所
YOKOMORI
開発営業部 TEL:03-3460-9229



アルミ樹脂複合サッシ
PRESEA-H

LIXIL
Link to Good Living

 リフォジュール株式会社

リョービ株式会社

<http://www.ryobi-group.co.jp/>

 リリカラ

YKK
ap®

<http://www.ykkap.co.jp/>

Kumahira

 株式会社 弘電社

 株式会社小松物産

リブ材なら
SAKAI Rib
Your Imagination Becomes Creation.

SANSHIN
UBE Group

三信通商株式会社

株式会社昭和洋樽製作所

 タキロンマテックス

 タチカワブラインド

株式会社 東京工営

 東北ポール

窓辺をかえる、明日が変わる。

TOSO

NITTO

株式会社 ニットー

NOHMI

能美防災株式会社

ホーチキ株式会社



三谷セキサン株式会社

山本窯業化工株式会社



今日を支え 明日を創る

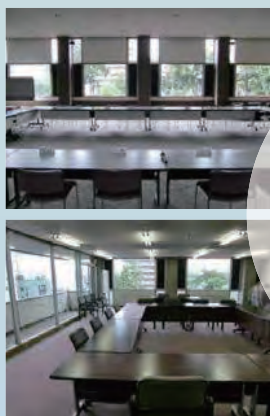
株式会社 四電工

YONDENKO

ARCHITECTS' HOUSE

建築家会館

建築家会館は、我が国における建築家の活動拠点とするために、
また「処士横議の場」として幅広い分野の方々との交流の場の建設を目指し、
1961年に建築家前川國男の呼びかけに応じて、
180名余りの建築家の有志によって設立されました。
現在もJIA会員を中心に幅広い活動の場としてご利用いただいています。



貸しホール
貸し会議室
あります。

セミナー・講演会等にご利用ください。

※下記保険を取り扱っています。(引受保険会社：

JIA建築家賠償責任保険・JIA所得補償保険・傷害総合保険、JSCA構造設計賠償責任保険

株式会社建築家会館

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-16
TEL.03 (3401) 6281 FAX.03 (3401) 8010
<http://www.kenchikuka-kaikan.jp/>



SIKA LEADS ADVANCEMENT IN INDUSTRIALIZATION OF 3D CONCRETE PRINTING

www.sika.com

BUILDING TRUST





よりそう保険。



無配当保障セレクト保険

あなたにぴったりの保障を自由にセレクト！

詳しくは、「商品パンフレット」をご覧ください。
ご検討にあたっては、「設計書(契約概要)」「特に重要な事項のご説明(注意喚起情報)」「ご契約のしおりー約款」を必ずご覧ください。

2019年4月1日より、三井生命は大樹生命に社名を変更しました。

大樹生命保険株式会社 公共・広域法人営業部

〒100-8123 東京都千代田区大手町 2-1-1 TEL:03-6831-8840

<https://www.taiju-life.co.jp/>

B-2019-1110 (2019.4)
使用期限 2020.3.31

六本木ヒルズ・森美術館 15周年記念展

建築の日本展

その遺伝子のもたらすもの

The Ancient Izumo Shrine

Jomon Dwelling

National Gymnasiums for the Tokyo Olympics

Nippon Budokan

ROPPONGI HILLS AND MORI ART MUSEUM 15TH ANNIVERSARY EXHIBITION

JAPAN IN ARCHITECTURE

Genealogies of Its Transformation

2018.4.25 (水) → 9.17 (祝 MON)

◆主催：森美術館 ◆後援：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、アルカジア東京大会2018、一般社団法人日本建築構造技術者協会、一般社団法人日本デザイン学会 ◆協賛：株式会社大林組、清水建設株式会社、株式会社竹中工務店、鹿島建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社日本設計、合同会社日本MGMリゾート、大光電機株式会社、IHI運搬機械株式会社、株式会社きんでん、三建設工業株式会社、アマノ株式会社、千代田ビル管理株式会社、フジテック株式会社、株式会社入江三宅設計事務所、株式会社関電工、株式会社建築設備設計研究所、株式会社久米設計、株式会社九電工、日本ピーマック株式会社、株式会社乃村工務社、パナソニック株式会社、三機工業株式会社、高砂熱学工業株式会社、株式会社山下設計、横浜ビル建材株式会社 ◆協力：シャンパーニュ ボメリー、コーニングインターナショナル株式会社、株式会社ハロー、前田建設工業株式会社、ものつくり大学、野口直人建築設計事務所、おだわら名工舎、住友電気工業株式会社、株式会社テオ、株式会社山長商店

森美術館

六本木ヒルズ森タワー53階
MORI ART MUSEUM
53F, ROPPONGI HILLS MORI TOWER
www.mori.art.museum

La Collina Omihachiman Grass Roof

Shogin TACT Tsuruoka

MORI ART MUSEUM

© 2018 MORI ART MUSEUM

大林組

清水建設

TAKENAKA

in 鹿島

大成建設

NIHON SEKKEI

MCM RESORTS

beyond 2020

森美術館「建築の日本展：その遺伝子のもたらすもの」ビジュアル

大会概要／関係者・協力者

大会名称	JIA 建築家大会 2018 東京	後 援：国土交通省
大会テーマ	素なることと多様な相	東京都
開催期間	2018年9月13日(木)～15日(土)	品川区
開催会場	明治大学駿河台キャンパス グランドハイアット東京、建築家会館	一般社団法人日本建築学会 公益社団法人日本建築士会連合会 一般社団法人日本建築士事務所協会連合会 一般社団法人日本建設業連合会 一般社団法人東京建築士会 一般社団法人東京都建築士事務所協会
参加者数	831名(登録者)	
主 催	公益社団法人日本建築家協会	
協 賛	89社	
特別協力	学校法人明治大学	
公式サイト	https://jia2018tokyo.com	

■大会実行委員会

委員長	藤沼 傑 (日本建築家協会 関東甲信越支部長)
副委員長	慶野 正司
運営部会	部会長：長井隆志／委員：風戸宏孝、矢戸照二、山口満、伊藤純一、榎本雅夫 WGメンバー：浅尾悦子
企画部会	部会長：相坂研介／委員：田口知子、村上晶子、松下督
広報部会	部会長：市村宏文／委員：中澤克秀、小林光義、小川峰夫、飯島洋省 WGメンバー：杉山英知、望月厚司、河野剛陽、石津浩章、菅谷聖史、杉山成明、立石博巳、大西摩弥 Webサイト：林エミ (FF クリエーション)
財務部会	部会長：森暢郎／委員：松下督、進藤憲治、櫻井修 WGメンバー：河野剛陽
特別協力	ARCASIA 東京大会特別実行委員会 交流委員会、城南地域会、世田谷地域会、長野地域会、神奈川地域会、住宅部会

JIA建築家大会 2018 東京 大会報告書

2019年5月21日発行

発行・編集 公益社団法人 日本建築家協会
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館4F

編集協力・製作 株式会社南風舎

TOKYU  2018